

石狩川下流域外減災対策協議会(第6回)

概ね5年で実施する取組について

令和2年3月9日

概ね5年で実施する取組（豊平川外地域部会）				2019年12月更新		赤字:今年度更新						該当無し		—		未実施:今後取組予定(検討中)		
項目		課題の対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		石狩振興局		北海道電力		北海道警察		札幌市		(江別市)	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1・ハード対策の主な取組																		
1)洪水氾濫を未然に防ぐ対策	①～⑤	堤防整備、河道掘削、河道内伐木、流域貯留施設整備、遊水地整備、幾春別川ダムの早期完成等	W	・堤防整備、河道掘削及び河道内伐木を実施 ・雨竜川ダム再生事業の調査検討	継続			・堤防整備、河道掘削及び河道内伐木を実施	継続							・河道掘削、流域貯留施設の整備を実施	継続	
2)大規模水害による壊滅的な被害を軽減する対策	①	各河川での危機管理型ハード対策の実施(堤防天端の保護、堤防法尻の補強)	W	・堤防決壊までの時間を少しでも引き延ばすための危機管理型ハード対策(天端保護工)を継続	H28→R2予定			・堤防決壊までの時間を少しでも引き延ばすための危機管理型ハード対策(天端保護工)を継続	H29→R3予定									
3)避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報を提供するためのシステム構築	J、K	・川の防災情報、河川リアルタイム情報のスマートフォンによる利用 ・水害リスクラインのHP公開(R2出水期までに)	H28→R2予定													
		洪水予報等をプッシュ型で情報発信するためのシステム構築	J、K	・緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信の実施。 (警戒レベルほか配信文を更新:R1)	H29→R1													
	③	防災行政無線の改良や防災ラジオ等の活用検討	J、K、P													—	—	—
	④	水害リスクが高い箇所に対して、洪水時の避難勧告等の発令判断に活用する水位計の整備	C	・既存簡易水位計の活用 他、危機管理型水位計の整備を実施 ・簡易型河川監視カメラを危険個所に整備	H28→R1			・危機管理型水位計の整備を実施 ・簡易型河川監視カメラを危険個所に整備予定	H29→R2予定									
	⑤	迅速な水防活動を支援するための水防資機材の整備	R	・水防資機材の整備、備蓄状況の情報共有	継続			・水防資機材・水防拠点の整備	継続	・水防資機材の整備	継続					土のうを作成するための麻袋や法面保護に用いるビニールシート等について、備蓄を行っている。	整備済み	・迅速な水防活動を実施するため、水防資機材の整備
	⑥	水防活動等の迅速化、水害対策に活用出来るハードの整備	S,W													—	—	—
2・ソフト対策の主な取組																		
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な避難行動のための取組																		
	①	避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	C	・関係市町村に該当する主要な河川を含めた避難勧告着目型タイムラインの更新	H28→継続			・避難勧告着目型タイムラインについて、内閣府の「避難勧告に関するガイドライン」改正に沿った形で改良を行うための協力を行った。 また、札幌建設管理部が実施した説明会において、防災気象情報の利活用について解説を実施した。	H30→R1							・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H27→H30	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成

概ね5年で実施する取組（豊平川外地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度更新

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		札幌建設管理部		石狩振興局		北海道電力		北海道警察		札幌市		(江別市)	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮し た流域タイムラインを作成 し、隣接した市町村の境界 を越えた広域避難の計画や 情報伝達について検討	C	・河川管理者タイムライン を策定、更新。(本部R1策 定、事務所H30～運用)今 後、構成機関と連携を図 り、広域避難、情報伝達な どについて調整。	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの条件 設定にあたり事務局と調整を 実施。	H29→ R3以降		・今後、広域避難について 関係機関と連携し対応し ていく。	継続	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H29→ R3以降	実行ある避難対策につい て、関係機関とともに検討	継続	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	R3以降 →	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	継続
	③	自治体との事前協議も含め た分かりやすい洪水予報伝 達文への改良	C、K	・避難の切迫性が市町村 や住民に伝わりやすい洪 水予報伝達文へ改良 (H28) 警戒レベルの追記(R1)	H28→ R1	・避難の切迫性が市町村や住 民に伝わりやすい洪水予報伝 達文へ改良(H28) 警戒レベルの追記(R1)	H28→ R1	・避難の切迫性が市町村 や住民に伝わりやすい洪 水予報伝達文へ改良 警戒レベルの追記	R1									
	④	水位周知河川等に未指定 の区間について、指定等 を実施	D	H29.3に空知川幾寅地区 を水位周知河川へ指定。 引き続き未指定区間の指 定等を検討予定。	H28→ R3以降			・水位周知河川の追加指 定について検討を予定 ・水位周知河川の未指定 の河川において簡易な方 法も活用して氾濫危険区 域図及び河川水位等の情 報を提供	H29→ R3以降									
	⑤	流域タイムラインを用いた洪 水時の市町村機能を確認 する対策(災对本部の移設 等)の検討	F、H												・庁舎は土のうで浸水防 止の対策を計画済み	継続	・流域タイムラインを用い た洪水時の市町村機能 を確認する対策(災对本部 の移設等)の検討	継続
	⑥	円滑に避難行動を実施する ための避難計画の作成	N												—	—	—	—
	⑦	情報伝達手段の多重化とし てのコミュニティFM放送 等との連携の検討	J、K、 L	・メディア連携協議会によ り、ハザードリスク情報の 共有取組の検討(開発局)	R1→ R3以降										・災害の情報を公式HPや 公式Facebook、札幌市防 災アプリ「そなえ」等を通 じて伝達する。避難勧告等 の発令時は緊急速報メー ル、TV・ラジオ、HP、広報 車等で住民に伝達する	継続	—	—
2)平時からの住民等へ の周知・教育・訓練に関 する事項	①	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図等の作成と 周知	D	・H29年4月までに想定最 大規模の洪水に係る浸水 想定区域図等の作成と各 自治体への周知、HP公 開が完了	H28→ H29			・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図等の 作成と各自治体への周知 及びHPの公開	H29→ R3以降									
	②	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周 知	D、E、 F、G、 I	・ハザードマップ改良に向 けた技術的な支援を実 施。	H28→ H29										・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいたハザードマップの作 成	H30→ H30	・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいたハザードマップの改 良と周知	H29→ H30
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた まるとまちごとハザード マップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	・まるとまちごとハザード マップの改良と周知の支 援	H30→ R3以降										・まるとまちごとハザード マップの周知に係る支援 (予定)	H30→ R3以降	—	—
	④	水害リスクが高い箇所につ いて、水防団、自治会等と の共同点検を実施	D、Q	・平常時に自治体と共に 水防団、自治会等と共同 点検を実施	継続										・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続
	⑤	警報・注意報発表時の「危 険度を色分けした時系列」 や「警報級の現象になる可 能性」の情報提供	B、K			平成29年5月17日から気象庁 ホームページで提供開始。	H29→ H29											
	⑥	市民等を対象とした防災教 育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・小学生を中心とした防災 教育を引き続き実施予定 ・出前講座を通じた防災 教育	継続	・小学校や中学校における学 校防災教育や、自治体防災訓 練に展示ブースを設置して防 災情報の解説を実施。今後も 継続して実施予定。 ・地方公共団体、地域防災リー ダー及び市民を対象に、中小 河川の氾濫を想定したワーク ショップを実施。今後も継続し て実施予定(R1)	継続 R1→継 続	・地域の要望等を踏まえ ながら関係機関と共に取 組んで行く。 ・防災マスター認定研修会 実施(R元.8.24実施済み) ・Doはぐ講師養成研修会 実施(R元.10.29実施済 み) ・市町村市民防災講座等 への支援(講師派遣)(R 元.6.1千歳市、R元.8.20 恵庭市 実施済み)	継続				警察の災害警備訓練に住 民が参加する訓練を取り 入れるなど、地域内の災 害対処能力を高める取組 を実施	継続	・総合防災訓練の実施 ・小中学校への防災教育 用教材の配布 ・小学校での防災授業(地 域の防災事業と連携した 防災授業、アプリそなえを 使った防災授業)の実施 ・子供向けの防災体験プ ログラム「イザ!カエル キャラバン!」の実施	継続	・小学生を対象とした防災 教育の実施	継続

概ね5年で実施する取組（豊平川外地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度更新

項目			課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		石狩振興局		北海道電力		北海道警察		札幌市		(江別市)	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
	⑦	自治体首長が参加する水 防災訓練を実施し、その実 施結果を踏まえた流域タイ ムライン等の見直し・修正	C、O													・災害対策本部訓練等での 風水害対応訓練の実施 (流域タイムラインも参考)	継続	・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	継続
	⑧	全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害対策 研修」の継続実施	A、O	・全ての流域市町村の職 員を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害対策研 修」の継続実施	継続		・石狩川流域圏会議によ る豪雨災害対策職員研修 のサポートを実施。	継続					・災害対策本部における 対応力の向上を図るため にRP方式の状況付与型 図上訓練を実施している。 ・石狩川流域圏会議にお ける全ての流域市町村の 職員を対象とした「豪雨災 害対策研修」への参画	継続	・全ての流域市町村の職 員を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続	
	⑨	住民の水防意識啓発のため、 S56洪水等の広報の充 実	A	・HPに洪水に関する広報 掲載。	継続				関係機関と協力して対応 する。 HPに56災害時の数値的 記録を掲載。	継続					防災普及啓発として、防 災DVDの貸出や出前講座 の実施、コミュニティFM・ ケーブルテレビへの出演 による普及啓発を行って いる。	継続	・住民の水防意識啓発の ため、S56洪水等の広報 の充実	継続	
	⑩	ダム警戒体制に関する地元 関係者への周知	K	・ダムからの初期放流時 は警報装置の吹鳴、警報 車による河川パトロール。 地元地域へ放流開始、洪水 等に通知。	継続				・ダムからの初期放流時 は警報装置の吹鳴、警報 車による河川パトロール。 地元地域へ放流開始、洪水 等に通知。	継続			・ダム警戒体制に関する 地元関係者への周知	継続		—	—		

(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のための的確な水防活動に関する取組

1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報 による河川水位や排水ポン プ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情 報による内水や外水情報 の共有	継続	・市町村向け川の防災情 報による内水や外水情報 の共有	継続							・市町村向け川の防災情 報による内水や外水情報 の共有	継続	・市町村向け川の防災情 報による内水や外水情報 の共有	継続
	②	水防団等との共同点検等の 実施及び重要水防箇所の 精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検 等の実施及び重要水防箇 所の精査・見直し	継続	・重要水防箇所の精査・見 直し	継続							・河川管理者との共同点 検等の実施及び重要水防 箇所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検 等の実施及び重要水防箇 所の精査・見直し	継続
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた 水防計画の見直し	D											・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいた水防計画の見直し	H30→ H30	・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいた水防計画の見直し	H30→ H30
	④	流域タイムラインを活用した 水防団等への連絡体制の 再確認と伝達訓練の実施や 多様な主体による水防活動 の検討	C、S											・災害対策本部訓練等での 風水害対応訓練の実施 (流域タイムラインも参考)	継続	・流域タイムラインを活用 した連絡体制の再確認と 伝達訓練の実施	継続
	⑤	水防団・自主防災組織・消 防署等の関係機関が連携し た水防訓練の実施	S	・関係機関と連携した水防 訓練及び水防技術講習会 の実施	継続	・関係機関と連携した水防 訓練の実施	継続					水防訓練への参加を通じ た対処能力の向上と関係 機関との連携	継続	総合防災訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・ 消防署等の関係機関が連 携した水防訓練の実施	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による 水防団員数の確保	M											—	—	・重要水防区域の理解を 高め、水防団員数を確保 する。	継続

2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した 要配慮者利用施設と連携し た情報伝達訓練や避難訓 練の検討及び要配慮者利 用施設における避難確保計 画の作成に向けた支援の検 討	N	・要配慮者利用施設にお ける避難計画、学校にお ける避難確保計画の作成 に関わる情報提供	H29→ R3以降							警察の災害警備訓練にお いて、要配慮者利用施設 が参加する訓練を取り入 れるなど、災害対処能力 を高める取組を実施	継続	・流域タイムラインも参考 とした要配慮者利用施設 と連携した情報伝達訓練 等の検討及び避難確保計 画の作成に向けた支援の 検討	H31予定 → R3以降	・流域タイムラインを活用 した配慮者利用施設・関 係各課と連携した情報伝 達訓練や避難訓練の検討 及び避難確保計画の作成 に向けた支援の検討	継続
	②	要配慮者利用施設、大規模 工場等への浸水リスクの説明 と水害対策等の啓発活動	N	・浸水リスクの説明、水害 対策等の啓発活動の継続	H28→ R3以降				・H29.3に札幌と振興局主 催による説明会を実施。 ・機会を捉えて必要な説 明を継続実施。	継続				施設への計画(避難確保 計画)等の周知の継続	H28→ R3以降	浸水想定区域内の社会福 祉施設における避難計画	H29→ R3予定

(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のための取組

	①	市町村向け川の防災情報 による排水ポンプ場情報の 共有	P	・市町村向け川の防災情 報による排水ポンプ場情 報の共有	継続									・大雨時には、川の防災 情報等を基に関連業者に についても待機、操作等の 指示を行っている。	継続	・大雨時には、関連業者 についても待機、操作等 の指示を行っている。	継続
--	---	-----------------------------------	---	------------------------------------	----	--	--	--	--	--	--	--	--	---	----	--	----

概ね5年で実施する取組（豊平川外地域部会）				2019年12月更新		赤字:今年度更新						該当無し	—	未実施:今後取組予定(検討中)				
項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		石狩振興局		北海道電力		北海道警察		札幌市		(江別市)	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期		
1)排水活動の強化に関する取組	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V	・石狩川流域における想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	H30→R3以降													
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続										・想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	H29→R3予定	・排水ポンプ車等による内水排除の実施	継続
2)緊急的な災害復旧工事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W	・堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	継続													
	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W	・堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	継続													
(4)高度に発達した市街地や地下空間への浸水等から、人命を守り被害を軽減するための迅速な避難や早期復旧に向けた取組																		
1)市街地や地下空間への浸水からの迅速な避難や早期復旧に関する取組	①	関係機関による内水による浸水想定区域図の検討	D												・下水道の浸水想定区域図検討	H29→R2予定		
	②	地下街における避難確保・浸水防止計画が未作成・未実施の所有者(管理者)への作成働きかけ	D												・地下街における避難確保・浸水防止計画が未作成・未実施の所有者(管理者)への作成働きかけ	継続		
	③	流域タイムラインを活用した市街地や地下空間における事前の防災行動に向けた関係機関との調整及び検討の実施	—		・流域タイムラインを活用した地下空間タイムラインに向けた関係機関との調整及び検討会の実施	H29→R3以降		・流域タイムラインを活用した地下空間タイムラインに向けた関係機関との調整及び検討会への参加	継続						・避難(浸水防止対策等)に対する周知の継続	H29→R3以降		

概ね5年で実施する取組 （豊平川外地域部会）

項目		課題の 対応	石狩市		当別町		
			業務内容	時期	業務内容	時期	
1・ハード対策の主な取組							
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W				
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W				
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K				
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K				
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P	・沿岸部における防災行 政無線(屋外拡声子局)の 整備	整備終了	—	—
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C				
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	水防資機材の整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W	—	—	—	—
2・ソフト対策の主な取組							
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な							
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	試行版完成	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	H28→ H30

概ね5年で実施する取組 （豊平川外地域部会）

項目			課題の 対応	石狩市		当別町	
				業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮し た流域タイムラインを作成し、 隣接した市町村の境界を越え た広域避難の計画や情報伝達 について検討	C	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画	継続	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画	H29→ R3以降
	③	自治体との事前協議も含めた 分かりやすい洪水予報伝達文 への改良	C、K				
	④	水位周知河川等に未指定の区 間について、指定等を実施	D				
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水 時の市町村機能を確認する対策 (災対本部の移設等)の検討	F、H	・流域タイムラインを用いた洪水 時の市町村機能を確認する対策 の検討	継続	・流域タイムラインを用いた洪水 時の市町村機能を確認する対策 (災対本部の移設等)の検討	H28→ R3以降
	⑥	円滑に避難行動を実施するた めの避難計画の作成	N	—	—	—	—
	⑦	情報伝達手段の多重化としての コミュニティーFM放送等との 連携の検討	J、K、 L	・警報発生時には石狩市メール 配信サービスや公式Twitter、 防災行政無線を活用し情報を 伝達する。また、避難勧告等の 発令時には先述に加え、対象 地域となる町内会長等へ直接 電話連絡を行うほか、広報車 やLアラート(緊急速報メール、 TV等)で市民へ伝達する。	継続	—	—
2)平時からの住民等への 周知・教育・訓練に関する 事項	①	想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図等の作成と周知	D				
	②	想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図に基づいたハザ ードマップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	・想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図に基づいたハザ ードマップの改良と周知	H30→ H30	・想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図に基づいたハザ ードマップの改良と周知	R1→ R3
	③	想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図に基づいたまる ごとまちごとハザードマップ の改良と周知	D、E、 F、G、 I	—	—	—	—
	④	水害リスクが高い箇所につい て、水防団、自治会等との共 同点検を実施	D、Q	・水害リスクが高い箇所の共 同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共 同点検	継続
	⑤	警報・注意報発表時の「危険 度を色分けした時系列」や「 警報級の現象になる可能性」 の情報提供	B、K				
	⑥	市民等を対象とした防災教育 の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・市民を対象とした防災教育 (防災フェスタ)の実施	H31→ 継続	・町民を対象とした防災訓練 及び防災教育の実施	継続

概ね5年で実施する取組 （豊平川外地域部会）

項目			課題の 対応	石狩市		当別町	
				業務内容	時期	業務内容	時期
	⑦	自治体首長が参加する水 防災訓練を実施し、その実 施結果を踏まえた流域タイ ムライン等の見直し・修正	C、O	・水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	継続	・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	継続
	⑧	全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害対策 研修」の継続実施	A、O	・町内会及び自治体が運 営する自主防災組織での 防災訓練や講習会等を実 施する。 ・石狩市防災マスター研修 会(月2回)を行い、石狩市 防災マスターの技術力の 向上を図る。 ・全ての流域市町村の職 員を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職 員を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充 実	A	住民の水防意識啓発のため、防災DVD講習や出前 講座の実施	継続	・町民を対象とした防災訓 練及び防災教育の実施	継続
	⑩	ダム警戒体制に関する地元 関係者への周知	K			—	—
(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため							
1)水防活動の効率化及 び水防体制の強化に関 する取組	①	市町村向け川の防災情報 による河川水位や排水ポン プ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情 報による内水や外水情報 の共有	継続	・市町村向け川の防災情 報による内水や外水情報 の共有	継続
	②	水防団等との共同点検等の 実施及び重要水防箇所の 精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検 等の実施及び重要水防箇 所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検 等の実施及び重要水防箇 所の精査・見直し	継続
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた 水防計画の見直し	D	・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいた水防計画の見直し	H30→ H30	・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいた水防計画の見直し	H28→ R2
	④	流域タイムラインを活用した 水防団等への連絡体制の 再確認と伝達訓練の実施や 多様な主体による水防活動 の検討	C、S	・流域タイムラインを活用 した連絡体制の再確認と 伝達訓練の実施	継続	・流域タイムラインを活用 した連絡体制の再確認と 伝達訓練の実施	継続
	⑤	水防団・自主防災組織・消 防署等の関係機関が連携し た水防訓練の実施	S	・自主防災組織等の関係 機関と連携した水防訓練 の実施	H31→継続	・自主防災組織等と連携し た水防訓練の実施	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による 水防団員数の確保	M	—	—	—	—
2)要配慮者利用施設や 大規模工場等の自衛水 防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した 要配慮者利用施設と連携し た情報伝達訓練や避難訓 練の検討及び要配慮者利 用施設における避難確保計 画の作成に向けた支援の検 討	N	・流域タイムラインを活用 した配慮者利用施設・関 係各課と連携した情報伝 達訓練や避難訓練の検討 及び避難確保計画の作成 に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用 した配慮者利用施設・関 係各課と連携した情報伝 達訓練や避難訓練の検討 及び避難確保計画の作成 に向けた支援の検討	継続
	②	要配慮者利用施設、大規模 工場等への浸水リスクの説明 と水害対策等の啓発活動	N	—	—	—	—
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のため							
	①	市町村向け川の防災情報 による排水ポンプ場情報の 共有	P	・川の防災情報等で河川 水位等の情報を収集して いる。 ・大雨時には、関連業者 についても待機・操作等	継続	・市町村向け川の防災情 報による内水情報の共有	継続

概ね5年で実施する取組 （豊平川外地域部会）

項目			課題の 対応	石狩市		当別町	
				業務内容	時期	業務内容	時期
1)排水活動の強化に関する取組	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V				
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	－	－	－	－
2)緊急的な災害復旧工事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W				
	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W				
(4)高度に発達した市街地や地下空間への浸水等から、人命を守り被							
1)市街地や地下空間への浸水からの迅速な避難や早期復旧に関する取組	①	関係機関による内水による浸水想定区域図の検討	D				
	②	地下街における避難確保・浸水防止計画が未作成・未実施の所有者(管理者)への作成働きかけ	D				
	③	流域タイムラインを活用した市街地や地下空間における事前の防災行動に向けた関係機関との調整及び検討の実施	－				

概ね5年で実施する取組（千歳川外地域部会）		2019年12月更新		赤字:今年度更新				該当無し		—		未実施:今後取組予定(検討中)							
項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		札幌建設管理部		石狩振興局		空知総合振興局		北海道警察		江別市		南幌町		
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	
1・ハード対策の主な取組																			
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W	・堤防整備、河道掘削及 び河道内伐木を実施 ・雨竜川ダム再生事業の 調査検討	継続			・堤防整備、河道掘削及 び河道内伐木を実施	継続										
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W	・堤防決壊までの時間を 少しでも引き延ばすため の危機管理型ハード対策 (天端保護工)を継続	H28→ R2予定			・堤防決壊までの時間を 少しでも引き延ばすため の危機管理型ハード対策 (天端保護工)を継続	H29→ R3予定										
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K	・川の防災情報、河川リアル タイム情報のスマート フォンによる利用 ・水害リスクラインのHP公 開 (R2出水期までに)	H28→ R2予定	・スマートフォン等で閲覧で きる今後の雨の予報を、これ までの6時間先から15時間 先までに延長するよう改善を 実施。(H30.6) ・洪水害発生 の危険度の高 まり等を地図上に表示する 「危険度分布」を、スマート フォン等の位置情報機能を 活用し、自分のいる場所の 「危険度分布」をワンタッチで 表示できるよう改善を実施。 (H30.8) ・台風の接近等による大雨 等により顕著な災害の発生 が想定される、あるいは既に 発生している際に、気象庁 が持つ危機感をより効果的 に伝えるために、気象庁防 災情報Twitterアカウントを新 たに開設し運用を開始。 (R01.10)	H30→継 続 R01→継 続												
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K	・緊急速報メールを活用し た洪水情報のプッシュ型 配信の実施。 (警戒レベルほか配信文 を更新:R1)	H29→ R1	・「危険度分布Ⅱ」における危 険度の高まりをプッシュ型で 通知するサービスを、気象 庁の協力の下で民間の協力 事業者が開始。通知サービ スでは、ユーザーが登録した 地域における危険度の変化 に気付くことができるように、 スマートフォンのアプリや メール等でお知らせする。 (R01.7.10)	R01→継 続												
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P												—	—	—	—	
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C	・既存簡易水位計の活用 の他、危機管理型水位計 の整備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険個所に整備	H28→ R1	・危機管理型水位計の整 備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険個所に整備予定	H29→ R2予定												
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・水防資機材の整備、備 蓄状況の情報共有	継続		・水防資機材・水防拠点の 整備	継続	・水防資機材の整備	継続	・水防資機材の整備	継続			・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W												—	—	—	—	
2・ソフト対策の主な取組																			
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な避難行動のための取組																			

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		石狩振興局		空知総合振興局		北海道警察		江別市		南幌町	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	①	避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	C	・関係市町村に該当する主要な河川を含めた避難勧告着目型タイムラインの更新	H28→ 継続	・H29年6月までに32市町村で各1河川で作成した避難勧告着目型タイムラインの作成にあたり技術的支援を実施。引き続き予定されている避難勧告着目型タイムラインの充実においても支援を予定。 ・ <u>避難勧告着目型タイムラインについて、内閣府の「避難勧告に関するガイドライン」改正に沿った形で改良を行うための協力を行った。</u> ・ <u>また、札幌建設管理部が実施した説明会において、防災気象情報の利活用について解説を実施した。</u>	H30→ R1	・避難勧告着目型タイムライン改良版の作成 ・改良版に関する説明会を開催(R1.9.9)	H29→ R2予定		・道管理河川における避難勧告着目型タイムライン作成に係る説明会を実施(R01.9.9)	R1			・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの更新	H30→ 継続	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H28→ H29
	②	洪水が広範囲に及ぶ想定最大規模の洪水等を考慮した流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界を越えた広域避難の計画や情報伝達について検討	C	・河川管理者タイムラインを策定、更新。(本部R1策定、事務所H30～運用)今後、構成機関と連携を図り、広域避難、情報伝達などについて調整。	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの条件設定にあたり事務局と調整を実施。	H29→ R3以降		・今後、広域避難について関係機関と連携し対応していく。	継続	・今後、広域避難について関係機関と連携し対応していく。	継続	実行ある避難対策について、関係機関とともに検討	継続	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	継続	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H29→ H29
	③	自治体との事前協議も含めた分かりやすい洪水予報伝達文への改良	C、K	・避難の切迫性が市町村や住民に伝わりやすい洪水予報伝達文へ改良(H28) 警戒レベルの追記(R1)	H28→ R1	・避難の切迫性が市町村や住民に伝わりやすい洪水予報伝達文へ改良(H28) 警戒レベルの追記(R1)	H28→ R1											
	④	水位周知河川等に未指定の区間について、指定等を実施	D	H29.3に空知川幾寅地区を水位周知河川へ指定。引き続き未指定区間の指定等を検討予定。	H28→ R3以降			・水位周知河川の追加指定について検討を予定 ・水位周知河川の未指定の河川において簡易な方法も活用して氾濫危険区域図及び河川水位等の情報を提供	H29→ R3以降									
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	F、H												・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	継続	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ H28
	⑥	円滑に避難行動を実施するための避難計画の作成	N								・要配慮者の個別避難計画(モデルケース)作成に係る会議に参加(R01.5.25、6.25、11/12)	継続			—	—	—	—
	⑦	情報伝達手段の多重化としてのコミュニティーFM放送等との連携の検討	J、K、L	・メディア連携協議会により、ハザードリスク情報の共有取組の検討(開発局)	R1→ R3以降										—	—	Jアラートを使用した情報伝達手段の活用	継続
	①	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と周知	D	・H29年4月までに想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知、HP公開が完了	H28→ H29			・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知及びHPの公開	H29→ R3以降									
	②	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	・ハザードマップ改良に向けた技術的な支援を実施。	H28→ H29										・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	H29→ H30	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	H29→ H29
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまことハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	・まるとまことハザードマップの改良と周知の支援	H30→ R3以降										—	—	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまことハザードマップの改良と周知	H29→ H29
	④	水害リスクが高い箇所について、水防団、自治会等との共同点検を実施	D、Q	・平常時に自治体と共に水防団、自治会等と共同点検を実施	継続										・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続
	⑤	警報・注意報発表時の「危険度を色分けした時系列」や「警報級の現象になる可能性」の情報提供	B、K			平成29年5月17日から気象庁ホームページで提供開始。	H29→ H29											

概ね5年で実施する取組（千歳川外地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度更新

	該当無し	—	未実施：今後取組予定（検討中）				
北海道警察			江別市			南幌町	
時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	
継続	警察の災害警備訓練に住民が参加する訓練を取り入れるなど、地域内の災害対処能力を高める取組を実施	継続	・小学生を対象とした防災教育の実施	継続	・町民を対象とした防災普及啓発の実施 ・隔年で南幌町防災フェスタにおいて、水害関連の訓練を実施	継続	
			・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	継続	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	R2→R2	
継続			・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	
継続			・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	
					・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続	
			・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	
			・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	H28→H28	
			・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H29→H29	
			・流域タイムラインを活用した連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H29→H29	
	水防訓練への参加を通じた対処能力の向上と関係機関との連携	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	
			・重要水防区域の理解を高め、水防団員数を確保する。	継続	・住民との協力により団員の確保に努めていく	継続	
	警察の災害警備訓練において、要配慮者利用施設が参加する訓練を取り入れるなど、災害対処能力を高める取組を実施	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した防災行政無線、情報伝達訓練、避難訓練の検討	H29→H29	
継続			浸水想定区域内の社会福祉施設における避難計画	継続	—	—	

概ね5年で実施する取組（千歳川外地域部会）				2019年12月更新		赤字:今年度更新						該当無し		—		未実施:今後取組予定(検討中)			
項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		札幌建設管理部		石狩振興局		空知総合振興局		北海道警察		江別市		南幌町		
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期			
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のための取組																			
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	継続										・大雨時には、関連業者についても待機、操作等の指示を行っている。	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V	・石狩川流域における想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	H30→R3以降														
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続										・排水ポンプ車等による内水排除の実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続	
2)緊急的な災害復旧工事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W	・堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	継続														
	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W	・堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	継続														

概ね5年で実施する取組 （千歳川外地域部会）

項目		課題の 対応	北広島市		恵庭市		長沼町		千歳市		(新篠津村)		(岩見沢市)		(当別町)		(月形町)
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容
1・ハード対策の主な取組																	
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W														
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W														
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K														
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステム構築	J、K														
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P	—	—	・防災行政無線の更新・改 良や防災ラジオ等の活用 検討 ・災害時の情報を藤枝市 のHPIに代理掲載協定	H31→ R4	防災行政無線の更新	R2→ R3	防災行政無線の更新	R1→ R2	・高齢独居世帯等への緊 急告知FMラジオの無償貸 与の実施	継続	—	—	・IP告知端末機の更新	
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C														
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S、W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2・ソフト対策の主な取組																	
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な																	

概ね5年で実施する取組（千歳川外地域部会）

項目			課題の 対応	北広島市		恵庭市		長沼町		千歳市		(新篠津村)		(岩見沢市)		(当別町)		(月形町)
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	①	避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	C	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H29→H29	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H29→H29	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインを活用した避難体制の構築	継続	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H28→H30	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H29→R3以降	・河川水位に着目した岩見沢市版災害タイムラインを活用した避難体制の構築	継続	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	H28→H30	・避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成
	②	洪水が広範囲に及ぶ想定最大規模の洪水等を考慮した流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界を越えた広域避難の計画や情報伝達について検討	C	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H29→R2以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H29→	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	R1以降→	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	R1→R2	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H30→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H29→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H29→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画
	③	自治体との事前協議も含めた分かりやすい洪水予報伝達文への改良	C、K															
	④	水位周知河川等に未指定の区間について、指定等を実施	D															
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	F、H	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→R3以降	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	R2以降→	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H31→H32	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	継続	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H29→R3以降	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→R3以降	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討
	⑥	円滑に避難行動を実施するための避難計画の作成	N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	⑦	情報伝達手段の多重化としてのコミュニティーFM放送等との連携の検討	J、K、L	・情報伝達手段の多重化(防災無線、広報車、エリアメール、Lアラート等)	継続	—	—	・情報伝達手段の多重化(防災無線、広報車、エリアメール、Lアラート等)	継続	フェイスブック、ツイッターの活用	継続	—	—	—	—	—	—	・IP告知端末機を活用する。
	①	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と周知	D															
	②	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	H29→H30	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	R2→	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	継続(R2防災ガイド全戸配布)	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	H30→H30	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	H30→H30	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	R1→R3	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまちごとハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	—	—	—	—	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまちごとハザードマップの改良と周知	継続	—	—	—	—	—	—	—	—	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまちごとハザードマップの改良と周知
	④	水害リスクが高い箇所について、水防団、自治会等との共同点検を実施	D、Q	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検
	⑤	警報・注意報発表時の「危険度を色分けした時系列」や「警報級の現象になる可能性」の情報提供	B、K															

概ね5年で実施する取組（千歳川外地域部会）

項目			課題の 対応	北広島市		恵庭市		長沼町		千歳市		(新篠津村)		(岩見沢市)		(当別町)		(月形町)
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容
2)平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項	⑥	市民等を対象とした防災教育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・小学生を対象とした防災教育の実施 ・出前講座等を開催し、防災・減災の意識の高揚を図る	継続	・出前講座等を開催し、防災・減災の意識の高揚を図る	継続	・出前講座等による防災意識の高揚と自主防災組織の組織化 ・子ども水防団による住宅浸水防止訓練の実施による啓発	継続	・市民防災講座、出前講座を開催し防災・減災意識の向上に努める。また、水災害の経験がない職員を対象に土のう作成訓練を実施している。	継続	・村民を対象とした防災訓練及び防災教育の実施	継続	・小中学校の防災訓練時における防災教育の実施 ・市民参加による防災訓練を毎年実施	継続	・町民を対象とした防災訓練及び防災教育の実施	継続	・町民を対象とした防災教育を毎年実施
	⑦	自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	C、O	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	H31→R3以降	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	継続	・町長自らが参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムラインの作成、見直し・修正	継続	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	H31→H32	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	継続	・流域市町による水防訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	R1→R3	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	継続	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正
	⑧	全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	A、O	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」への継続参加	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・流域市町村防災担当職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・S56洪水等の広報活動への協力により、市民への水防意識啓発	継続	・町民を対象とした防災訓練及び防災教育の実施	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K			・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続			・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続			—	—	—	—	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知
(2)多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため(																		
1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	H29→R3以降	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・水防消防団等との共同点検等の実施	継続	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・消防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H29→R2以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	R1→R1予定	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H28→R2	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H29→R2以降	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認	R2以降→	・流域タイムラインを活用した消防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	R1→R2	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H29→R3以降	・流域タイムラインを活用した連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・消防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・消防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・自主防災組織等と連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M	・住民との協力により団員の確保に努めていく	継続	・水防団員数の確保（現時点では概ね定員を満たしている）。	継続	—	—	・市民・企業等への呼び掛けによる消防水防団員数の確保	継続	・地域ごとに依頼し、水防団員数を確保	継続	・消防団員数の確保 ・広報誌による募集案内、市内で開催されるイベントでのPR活動の実施	継続	—	—	・消防団活動の大切さを周知することにより、消防団員数の確保を図る
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	H29→R2以降	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	R2予定→	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難確保計画の作成に向けた検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難確保計画の作成に向けた支援の検討 ・配慮者利用施設との福祉避難所指定に向けた協定の締結	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難確保計画の作成に向けた支援を検討する。
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	—	—	—	—	・河川近傍事業所等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	継続	・民間施設については法に基づく避難計画が策定されていることを確認している。また、企業から訓練支援の要請がある場合は対応している。	継続	・新篠津村避難行動要支援者避難支援計画に基づく支援	継続	・社会福祉施設等における非常災害対策及び入所者等の安全の確保について通知を出して、注意喚起を行う。	継続	—	—	—

概ね5年で実施する取組 （千歳川外地域部会）

項目		課題の 対応	北広島市		恵庭市		長沼町		千歳市		(新篠津村)		(岩見沢市)		(当別町)		(月形町)	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のため																		
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	H28→	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V															
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	—	—	—	—	・排水ポンプ等による訓練の実施	継続	—	—	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続	—	—	・排水ポンプ車等による訓練の実施
2)緊急的な災害復旧工事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W															
	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W															

概ね5年で実施する取組（千歳川外地域部会）

項目			課題の 対応	時期
1・ハード対策の主な取組				
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W	
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W	
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K	
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K	
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P	R1→ R1予定
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C	
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	継続
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S、W	－
2・ソフト対策の主な取組				
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な				

概ね5年で実施する取組 （千歳川外地域部会）

項目			課題の 対応	時期
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	①	避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成	C	継続
	②	洪水が広範囲に及ぶ想定最大規模の洪水等を考慮した流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界を越えた広域避難の計画や情報伝達について検討	C	H29→ R3以降
	③	自治体との事前協議も含めた分かりやすい洪水予報伝達文への改良	C、K	
	④	水位周知河川等に未指定の区間について、指定等を実施	D	
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確保する対策(災対本部の移設等)の検討	F、H	H29→ R3以降
	⑥	円滑に避難行動を実施するための避難計画の作成	N	—
	⑦	情報伝達手段の多重化としてのコミュニティーFM放送等との連携の検討	J、K、 L	H29→ R3以降
	①	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と周知	D	
	②	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	R1→ R1予定
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるごとまちごとハザードマップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	R1以降→
	④	水害リスクが高い箇所について、水防団、自治会等との共同点検を実施	D、Q	R1以降→
	⑤	警報・注意報発表時の「危険度を色分けした時系列」や「警報級の現象になる可能性」の情報提供	B、K	

概ね5年で実施する取組 （千歳川外地域部会）

項目			課題の 対応	時期
2)平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項	⑥	市民等を対象とした防災教育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	H29→R3以降
	⑦	自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	C、O	H29→R3以降
	⑧	全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	A、O	継続
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A	継続
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K	継続
(2)多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため(				
1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	継続
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	継続
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D	継続
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S	継続
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M	継続
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	継続
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	—

概ね5年で実施する取組 （千歳川外地域部会）

項目		課題の 対応	時期
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のた			
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P H28→R3以降
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V /
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U 継続
2)緊急的な災害復旧工事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W /
	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W /

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		北海道警察		栗山町		由仁町		夕張市			
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期		
1・ハード対策の主な取組																				
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤		堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W	・堤防整備、河道掘削及 び河道内伐木を実施 ・雨竜川ダム再生事業の 調査検討	継続			・堤防整備、河道掘削およ び河道内伐木を実施	継続										
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①		各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W	・堤防決壊までの時間を 少しでも引き延ばすため の危機管理型ハード対策 (天端保護工)を継続	H28→ R2予定			・堤防決壊までの時間を 少しでも引き延ばすため の危機管理型ハード対策 (天端保護工)を継続	H29→R3 予定										
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①		住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K	・川の防災情報、河川リア ルタイム情報のスマート フォンによる利用 ・水害リスクラインのHP公 開 (R2出水期までに)	H28→ R2予定														
	②		洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K	・緊急速報メールを活用し た洪水情報のプッシュ型 配信の実施。 (警戒レベルほか配信文 を更新:R1)	H29→ R1														
	③		防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P									(情報弱者等への)防災ラ ジオの配布	R4	－	－	－	－		
	④		水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C	・既存簡易水位計の活用 の他、危機管理型水位計 の整備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険個所に整備	H28→ R1			・危機管理型水位計の整 備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険個所に整備予定	H29→R2 予定										
	⑤		迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・水防資機材の整備、備 蓄状況の情報共有	継続			・水防資機材・水防拠点の 整備	継続	・水防資機材の整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・市、消防団と水防資機材 の備蓄及び新規・更新状 況の情報共有 2年計画で8消防分団詰所 に土のう用砂4㎡を配置	継続		
	⑥		水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W									－	－	－	－	－	－		
2・ソフト対策の主な取組																				
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な避難行動のための取組																				
	①		避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C	・関係市町村に該当する 主要な河川を含めた避難 勧告着目型タイムラインの 更新	H28→ 継続			・避難勧告着目型タイムラ イン改良版の作成 ・改良版に関する説明会 を開催(R1.9.9)	H29→R2 予定					・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	H28→H 29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	H28→R 2	・夕張市避難勧告等判断・ 伝達マニュアルを改定中 ・タイムラインについては、 今後、関係各課及び関係 機関と要協議	R1→R1

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		北海道警察		栗山町		由仁町		夕張市			
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期		
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮した 流域タイムラインを作成し、 隣接した市町村の境界を 越えた広域避難の計画や 情報伝達について検討	C	・ 河川管理者タイムライン を策定、更新。(本部R1策 定、事務所H30～運用) 今 後、構成機関と連携を図 り、広域避難、情報伝達な どについて調整。	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携 に関する流域タイムラインの 条件設定にあたり事務局と調 整を実施。	H29→ R3以降			・今後、広域避難について 関係機関と連携し対応し ていく。	継続	実行ある避難対策につい て、関係機関とともに検討	継続	・想定最大規模の洪水等 をハザードとした、情報伝 達、避難計画及び近隣市 町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの 作成	R1→ R1	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	R1→R3 以降	・ 洪水氾濫危険区域図を 市HPに掲載済	R1→R1	
	③	自治体との事前協議も含め た分かりやすい洪水予報伝 達文への改良	C、K	・避難の切迫性が市町村 や住民に伝わりやすい洪 水予報伝達文へ改良 (H28) 警戒レベルの追記 (R1)	H28→ R1	・避難の切迫性が市町村や住 民に伝わりやすい洪水予報伝 達文へ改良 (H28) 警戒レベルの追記 (R1)	H28→ R1													
	④	水位周知河川等に未指定 の区間について、指定等 を実施	D	H29.3に空知川幾寅地区 を水位周知河川へ指定。 引き続き未指定区間の指 定等を検討予定。	H28→ R3以降		・水位周知河川の追加指 定について検討を予定 ・水位周知河川の未指定 の河川において簡易な方 法も活用して氾濫危険区 域図及び河川水位等の情 報を提供	H29→R3 以降												
	⑤	流域タイムラインを用いた洪 水時の市町村機能を確認 する対策(災对本部の移設 等)の検討	F、H												・流域タイムラインを用い た洪水時の市町村機能を 確保する対策(災对本部 の移設等)の検討	R1→ R3以降	・流域タイムラインを用い た洪水時の市町村機能を 確保する対策(災对本部 の移設等)の検討	H28→R 2	関係各機関と要協議	R1→R3 以降
	⑥	円滑に避難行動を実施する ための避難計画の作成	N								・要配慮者の個別避難計 画(モデルケース)作成に 係る会議に参加(R 01.5.25、6.25、11/12)	継続			・避難行動要支援者個別 計画の作成 ・福祉施設等における洪 水時の避難確保計画策定 の助言等の対応	・R1→ R2以降 ・R1以降	避難所マニュアル等の作 成	継続	運営に関するマニュアル 作成済 (H 30.4.27) ・福祉避難所協定締結 (H30.10) ・福祉避難所の増設を検 討中	H30→R3
	⑦	情報伝達手段の多重化とし てのコミュニティーFM放送 等との連携の検討	J、K、 L	・ メディア連携協議会によ り、ハザードリスク情報の 共有取組の検討(開発局)	R1→ R3以降										・H29年度にJアラートを公 共施設等13箇所の館内放 送設備に接続し情報伝達 手段を整備。 ・H30年度にJアラートの新 型受信機を設置 ・R3年度よりコミュニティ FMを整備予定。	H29→ R4	・H30年度にJアラートの新 型受信機を設置	H30→H 30	・Jアラートの屋外スピー カーを市内学校2箇所に 設置し情報伝達手段を確 保 (年4回全国一斉試験実 施) ・H30年度にJアラートの新 型受信機を設置済	継続
2)平時からの住民等へ の周知・教育・訓練に関 する事項	①	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図等の作成と 周知	D	・H29年4月までに想定最 大規模の洪水に係る浸水 想定区域図等の作成と各 自治体への周知、HP公 開が完了	H28→ H29		・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図等の 作成と各自治体への周知 及びHPの公開	H29→R3 以降												
	②	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周 知	D、E、 F、G、 I	・ハザードマップ改良に向 けた技術的な支援を実 施。	H28→ H29										・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいたハザードマップの改 良と周知	H30→ R2以降	・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいたハザードマップの改 良と周知	R1→R2	・洪水氾濫危険区域図を 市HPに掲載済 ・ 想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいたハザードマップにつ いては、令和3年度までに 更新予定	R1→R3
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた まるとまちごとハザード マップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	・まるとまちごとハザード マップの改良と周知の支 援	H30→ R3以降															
	④	水害リスクが高い箇所につ いて、水防団、自治会等と の共同点検を実施	D、Q	・平常時に自治体と共に 水防団、自治会等と共同 点検を実施	継続										・平常時に札幌開発建設 部、消防署、関係部署と 共同点検を実施	継続	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	関係各機関と要検討	R1→R3 以降
	⑤	警報・注意報発表時の「危 険度を色分けした時系列」 や「警報級の現象になる可 能性」の情報提供	B、K			平成29年5月17日から気象庁 ホームページで提供開始。	H29→ H29													
	⑥	市民等を対象とした防災教 育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・小学生を中心とした防災 教育を引き続き実施予定 ・ 出前講座を通じた防災 教育	継続		・小学校や中学校における学 校防災教育や、自治体防災 訓練に展示ブースを設置し て防災情報の解説を実施。今 後も継続して実施予定。 ・ 地方公共団体、地域防災 リーダー及び市民を対象に、 中小河川の氾濫を想定した ワークショップを実施。今後 も継続して実施予定(R1)	継続 R1→継 続		・地域の要望等を踏まえ ながら関係機関と共に取 り組んで行く。 ・ 地域防災マスター認定研 修実施(R1.8.18及び25)	継続	警察の災害警備訓練に住 民が参加する訓練を取り 入れるなど、地域内の災 害対処能力を高める取組 を実施	継続	・町内会等における防災 学習会(出前講座)の実施	継続	・防災教育の実施 ・防災訓練において水防 訓練を実施	継続	・中学生及び町内会を対 象とした防災教育を実施	継続	

概ね5年で実施する取組（タ張川上流地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度更新

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		北海道警察		栗山町		由仁町		夕張市	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
	⑦	自治体首長が参加する水 防災訓練を実施し、その実 施結果を踏まえた流域タイ ムライン等の見直し・修正	C、O										・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	R1→ R3以降	・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	R1→R3	・消防団(水防団)による 水防訓練・住民避難訓練 実施予定。	継続
	⑧	全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害対策 研修」の継続実施	A、O	継続	・全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害対策研 修」の継続実施	継続			・石狩川流域圏会議によ る豪雨災害対策職員研修 のサポートを実施。	継続			・全ての流域市町村の職 員を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職 員を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続	・研修会等に職員を派遣	継続
	⑨	住民の水防意識啓発のた め、S56洪水等の広報の充 実	A	継続	・HPに洪水に関する広報 掲載。				関係機関と協力して対応 する。 HPにS56災害時の数值的 記録を掲載。	継続			・住民の水防意識啓発の ため、S56洪水等の広報 の充実	継続	・住民の水防意識啓発の ため、S56洪水等の広報 の充実	継続	・市民に水防に対する意 識啓発のため防災講話や 防災訓練時に周知。	継続
	⑩	ダム警戒体制に関する地元 関係者への周知	K	継続	・ダムからの初期放流時 は警報装置の吹鳴、警報 車による河川バトロール。 地元地域へ放流開始、洪 水等に通知。		・ダムからの初期放流時 は警報装置の吹鳴、警報 車による河川バトロール。 地元地域へ放流開始、洪 水等に通知。	継続					・ダム警戒体制に関する 地元関係者への周知	継続	・ダム警戒体制に関する 関係者への周知	継続	・地域防災計画(水防計 画)により市民へ周知 ・警報サイレン及び警報車	継続

(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のための的確な水防活動に関する取組

1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続			・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続			・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続			
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続			・重要水防箇所の精査・見直し	継続			・平常時に札幌開発建設部、消防署、関係部署と共同点検を実施	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検	継続	・研修、訓練等において消防団と情報共有	R1→R1	
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D									・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	R1→R2以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	R1→R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し予定	R1→R1	
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S									・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	R1→R3以降	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H30→R3	・水防団等への連絡体制の確立と伝達訓練の実施予定	R1→R1	
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	・関係機関と連携した水防訓練及び水防技術講習会の実施	継続			・関係機関と連携した水防訓練の実施	継続		水防訓練への参加を通じた対処能力の向上と関係機関との連携	継続	・自衛隊・水防団・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施(総合防災訓練)	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施(総合防災訓練)	継続	・消防団(水防団)による水防訓練・住民避難訓練実施 消防・警察が連携し、災害対応能力の向上を図る。	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M									・消防団による勧誘活動の実施	継続	—	—	—	—	
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	・要配慮者利用施設における避難計画、学校における避難確保計画の作成に関わる情報提供	H29→R3以降						警察の災害警備訓練において、要配慮者利用施設が参加する訓練を取り入れるなど、災害対処能力を高める取組を実施	継続	・配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の実施	H28→R3以降	・配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討	H30→R3	・配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討	R1→R1
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	・浸水リスクの説明、水害対策等の啓発活動の継続	H28→R3以降					・H29.3に札幌と振興局主催による説明会を実施。 ・機会を捉えて必要な説明を継続実施。	継続		・要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	R1→R2以降	・要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	R1→R3以降	・自衛消防訓練時に、浸水リスクを説明し、水害対策等の啓発活動を実施。	継続

(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のための取組

1)排水活動の強化に関 する取組	①	市町村向け川の水防情報 による排水ポンプ場情報の 共有	P	・市町村向け川の水防情 報による排水ポンプ場情 報の共有	継続							・市町村向け川の水防情 報による内水情報の共有	R1→ R2以降	・市町村向け川の水防情 報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の水防情 報による内水情報の共有	継続
	②	想定最大規模の洪水を想 定した排水計画の検討	T、U、 V	・石狩川流域における想 定最大規模の洪水を想定 した排水計画の検討	H30→ R3以降												
	③	排水ポンプ車等による訓練 の実施	U	・排水ポンプ車等による訓 練の実施	継続								—	—	—	—	—
2)緊急的な災害復旧工	①	堤防決壊シミュレーションに よる現地条件を考慮した効 果的な災害復旧方法の検 討	W	・堤防決壊シミュレーショ ンによる現地条件を考慮 した効果的な災害復旧方 法の検討	継続												

概ね5年で実施する取組（夕張川上流地域部会）				2019年12月更新		赤字:今年度更新								該当無し		—		未実施:今後取組予定(検討中)			
項目			課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		北海道警察		栗山町		由仁町		夕張市			
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期		
事に向けた取組強化		②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W	・堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	継続															

概ね5年で実施する取組（幾春別川外地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度記載更新

該当無し

－

未実施:今後取組予定(検討中)

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		石狩振興局		空知総合振興局		北海道警察		新篠津村		岩見沢市			
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期		
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮した 流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界 を越えた広域避難の計画や 情報伝達について検討	C	・河川管理者タイムライン を策定、更新。(本部R1策 定、事務所H30～運用) 今 後、構成機関と連携を図り、 広域避難、情報伝達など について調整。	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの条件設定にあ たり事務局と調整を実施。	H29→ R3以降			・今後、広域避難について 関係機関と連携し対応し ていく。	継続	・今後、広域避難について 関係機関と連携し対応し ていく。	継続	実行ある避難対策につい て、関係機関とともに検討	継続	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H30→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H29→ R3以降	
	③	自治体との事前協議も含めた 分かりやすい洪水予報伝 達文への改良	C、K	・避難の切迫性が市町村 や住民に伝わりやすい洪水 予報伝達文へ改良 (H28) 警戒レベルの追記 (R1)	H28→ R1	・避難の切迫性が市町村 や住民に伝わりやすい洪水 予報伝達文へ改良 (H2 8) 警戒レベルの追記 (R1)	H28→ R1													
	④	水位周知河川等に未指定 の区間について、指定等を実施	D	H29.3に空知川幾寅地区 を水位周知河川へ指定。 引き続き未指定区間の指 定等を検討予定。	H28→ R3以降			・水位周知河川の追加指 定について検討を予定 ・水位周知河川の未指定 の河川において簡易な方 法も活用して氾濫危険区 域図及び河川水位等の情 報を提供	H29→ R3以降											
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水 時の市町村機能を確認する 対策(災对本部の移設 等)の検討	F、H														・流域タイムラインを用いた 洪水時の市町村機能を確認 する対策(災对本部の移設等) の検討	継続	・流域タイムラインを用いた 洪水時の市町村機能を確認 する対策(災对本部の移設等) の検討	H29→ R3以降
	⑥	円滑に避難行動を実施する ための避難計画の作成	N									・要配慮者の個別避難計画 (モデルケース)作成に係る 会議に参加(R01.5.25、6.25、 11/12)	継続			－	－	－	－	
	⑦	情報伝達手段の多重化としての コミュニティーFM放送等との 連携の検討	J、K、 L	・メディア連携協議会により、 ハザードリスク情報の共有 取組の検討(開発局)	R1→ R3以降												－	－	－	－
2)平時からの住民等への 周知・教育・訓練に関する事項	①	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図等の作成と 周知	D	・H29年4月までに想定最大 規模の洪水に係る浸水 想定区域図等の作成と各 自治体への周知、HP公開が 完了	H28→ H29			・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図等の作成と各 自治体への周知及びHPの公開	H29→ R3以降											
	②	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	・ハザードマップ改良に向けた 技術的な支援を実施。	H28→ H29												・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知	H30→ H30	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知	H30→ H30
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた まるとまちごとハザード マップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	・まるとまちごとハザード マップの改良と周知の支援	H30→ R3以降												－	－	－	－
	④	水害リスクが高い箇所について、 水防団、自治会等との 共同点検を実施	D、Q	・平常時に自治体と共に 水防団、自治会等と共同 点検を実施	継続												・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続
	⑤	警報・注意報発表時の「危険 度を色分けした時系列」 や「警報級の現象になる可能性」 の情報提供	B、K			平成29年5月17日から気 象庁ホームページで提供 開始。	H29→ H29													
	⑥	市民等を対象とした防災教育 の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・小学生を中心とした防災教育 を引き続き実施予定 ・出前講座を通じた防災教育	継続	・小学校や中学校における 学校防災教育や、自治体 防災訓練に展示ブースを 設置して防災情報の解説 を実施。今後も継続して 実施予定。 ・地方公共団体、地域 防災リーダー及び市民を 対象に、中小河川の氾濫 を想定したワークショップ を実施。今後も継続して 実施予定 (R1)	継続 R1→継続	・地域の要望等を踏まえ ながら関係機関と共に 取り組んで行く。 ・防災マスター認定 研修会実施 (R元8.24 実施済み) ・Doはぐ講師養成 研修会実施 (R元10.29 実施済み) ・市町村市民防災講座 等への支援(講師派遣) (R元. 6.1千歳市、 R元. 8.20恵庭市 実施済み)	継続	・地域の要望等を踏まえ ながら関係機関と共に 取り組んで行く。 ・地域防災マスター 認定研修実施 (R1.8.25) ・Doはぐ講師養成 講座参加 (R1.10.29)	継続	警察の災害警備訓練に住 民が参加する訓練を取り 入れるなど、地域内の 災害対処能力を高める 取組を実施	継続	・村民を対象とした 防災訓練及び防災教育 の実施	継続	・小中学校の防災訓練 時における防災教育の 実施 ・市民参加による 防災訓練を毎年実施	継続			
	⑦	自治体首長が参加する水 防災訓練を実施し、その 実施結果を踏まえた 流域タイムライン等の 見直し・修正	C、O														・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、その 実施結果を踏まえた 流域タイムライン等の 見直し・修正	継続	・流域市町による水防 訓練を実施し、その 実施結果を踏まえた 流域タイムライン等の 見直し・修正	R1→ R3
	⑧	全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	A、O	・全ての流域市町村の職員 を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員 を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続			・石狩川流域圏会議による 豪雨災害対策職員研修の サポートを実施。	継続	・石狩川流域圏会議による 豪雨災害対策職員研修の サポートを実施。	継続			・全ての流域市町村の職員 を対象とした「豪雨災害 対策研修」の継続実施	継続	・流域市町村防災担当 職員を対象とした「豪雨 災害対策研修」の実施	継続	

概ね5年で実施する取組（幾春別川外地域部会）

2019年12月更新

赤字: 今年度記載更新

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		札幌建設管理部		石狩振興局		空知総合振興局		北海道警察		新篠津村		岩見沢市	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A	・HPに洪水に関する広報掲載。	継続					関係機関と協力して対応する。 HPに56災害時の数値的記録を掲載。	継続	関係機関と協力して対応する。 HPに56災害時の数値的記録を掲載。	継続			・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・S56洪水等の広報活動への協力により、市民への水防意識啓発	継続
	⑩ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K	・ダムからの初期放流時は警報装置の吹鳴、警報車による河川パトロール。地元地域へ放流開始、洪水等に通知。	継続			・ダムからの初期放流時は警報装置の吹鳴、警報車による河川パトロール。地元地域へ放流開始、洪水等に通知。	継続									—	—

(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のための的確な水防活動に関する取組

1) 水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続		・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続							・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続		・重要水防箇所の精査・見直し	継続							・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・消防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D												・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	R1→R1 予定
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S												・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H29→R3以降
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	・関係機関と連携した水防訓練及び水防技術講習会の実施	継続		・関係機関と連携した水防訓練の実施	継続					水防訓練への参加を通じた対処能力の向上と関係機関との連携	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・消防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M												・地域ごとに依頼し、水防団員数を確保	継続	・消防団員数の確保・広報誌による募集案内、市内で開催されるイベントでのPR活動の実施	継続
2) 要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	・要配慮者利用施設における避難計画、学校における避難確保計画の作成に関わる情報提供	H29→R3以降								警察の災害警備訓練において、要配慮者利用施設が参加する訓練を取り入れるなど、災害対処能力を高める取組を実施	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	・浸水リスクの説明、水害対策等の啓発活動の継続	H28→R3以降				・H29.31に札幌と振興局主催による説明会を実施。 ・機会を捉えて必要な説明を継続実施。	継続	・H29.31に札幌と振興局主催による説明会を実施。 ・機会を捉えて必要な説明を継続実施。	継続			・新篠津村避難行動要支援者避難支援計画に基づく支援	継続	・社会福祉施設等における非常災害対策及び入所者等の安全の確保について通知を出して、注意喚起を行う。	継続

(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のための取組

1) 排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	継続										・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V	・石狩川流域における想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	H30→R3以降													
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続										・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続
2) 緊急的な災害復旧工事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W	・堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	継続													
	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W	・堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	継続													

概ね5年で実施する取組 （幾春別川外地域部会）

項目		課題の 対応	美唄市		三笠市		月形町		
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	
1・ハード対策の主な取組									
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W						
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W						
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K						
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K						
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P	—	—	防災行政無線の整備	H32→ R2 予定	・IP告知端末機の更新	R1→ R1 予定
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C						
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W	—	—	—	—	—	—
2・ソフト対策の主な取組									
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な									
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	H27→ H30	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	H28→ R3以降	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	継続

概ね5年で実施する取組 （幾春別川外地域部会）

項目		課題の 対応	美唄市		三笠市		月形町	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮した 流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界 を越えた広域避難の計画や 情報伝達について検討	C	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H29→ R3以降	
	③	自治体との事前協議も含めた 分かりやすい洪水予報伝 達文への改良	C、K					
	④	水位周知河川等に未指定 の区間について、指定等 を実施	D					
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水 時の市町村機能を確認 する対策(災对本部の移設 等)の検討	F、H	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ R3以降	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ R3以降	
	⑥	円滑に避難行動を実施する ための避難計画の作成	N	—	—	—	—	
	⑦	情報伝達手段の多重化としての コミュニティーFM放送 等との連携の検討	J、K、 L	—	—	—	・IP告知端末機を活用する。 H29→ R3以降	
2)平時からの住民等への 周知・教育・訓練に関する事項	①	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図等の作成と 周知	D					
	②	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周 知	D、E、 F、G、 I	・H29年8月までに想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等のハザードマップ作成・全戸配布が完了	H28→ H28	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	H29→ H29	
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた まるとまちごとハザード マップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	—	—	—	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまちごとハザードマップの改良と周知	R1以降→
	④	水害リスクが高い箇所について、 水防団、自治会等との 共同点検を実施	D、Q	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	
	⑤	警報・注意報発表時の「危険 度を色分けした時系列」 や「警報級の現象になる可 能性」の情報提供	B、K					
	⑥	市民等を対象とした防災教育 の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・市民を対象とした防災訓練の実施 ・小学校における学校防災教育の実施	継続	・三笠市少年消防クラブ員に対してカリキュラムの一環として防災教育を実施	継続	
	⑦	自治体首長が参加する水 防災訓練を実施し、その 実施結果を踏まえた流域 タイムライン等の見直し・修正	C、O	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	H29→ R3以降	・自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	H31→ R3以降	
	⑧	全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害対策 研修」の継続実施	A、O	・流域市町村防災担当職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の実施	継続	・流域市町村防災担当職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の実施	継続	

概ね5年で実施する取組（幾春別川外地域部会）

項目			課題の 対応	美唄市		三笠市		月形町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続
(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため									
1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し ハザードマップを作成済	H29→ H29	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し 作業中。ハザードマップを作成済	H29→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S	・流域タイムラインを活用した水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	H29→ R3以降	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H29→ R3以降	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	継続
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M	・水防団員数の確保	継続	・水防団員数の確保(消防団兼任であるため地域の消防団により人選し確保及び市内企業に対し消防団入団の協力依頼)	継続	・消防団活動の大切さを周知することにより、消防団員数の確保を図る	継続
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討	H29→ R3以降	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の未作成施設に対しての支援の検討	H29→ R3以降	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援を検討する。	継続
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	—	—	・市内6施設のうち、2施設が洪水時の避難確保計画を作成している。残り4施設のについては作成を促している。	継続	—	—
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のため									
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	H28→ H28	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	H28→ R3以降	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	H28→ R3以降
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、 V						
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続
2)緊急的な災害復旧工事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W						
	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W						

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度更新

該当無し

未実施:今後取組予定(検討中)

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		旭川地方気象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		旭川建設管理部		上川総合振興局		北海道電力	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1・ハード対策の主な取組																		
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W	・堤防整備、河道掘削及び 河道内伐木を実施 ・雨竜川ダム再生事業の調 査検討	継続					・堤防整備、河道掘削及び 河道内伐木を実施	継続			・堤防整備、河道掘削及び 伐木、護岸工等を実施	継続			
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W	・堤防決壊までの時間を少 しでも引き延ばすための危 機管理型ハード対策(天端 保護工)を継続	H28→ R2予定					・堤防決壊までの時間を少 しでも引き延ばすための危 機管理型ハード対策(天端 保護工)を継続	H29→ R3予定							
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K	・川の防災情報、河川リア ルタイム情報のスマート フォンによる利用 ・水害リスクラインのHP公 開 (R2出水期までに)	H28→ R2予定	・スマートフォン等で閲覧で きる今後の雨の予報を、これま での6時間先から15時間先ま でに延長するよう改善を実 施。(H30.6) ・洪水害発生時の危険度の高ま り等を地図上に表示する「危 険度分布」を、スマートフォン 等の位置情報機能を活用し、 自分のいる場所の「危険度分 布」をワンタッチで表示でき るよう改善を実施。(H30.8) ・台風の接近等による大雨等 により顕著な災害の発生が想 定される、あるいは既に発生 している際に、気象庁が持つ 危機感をより効果的に伝える ために、気象庁防災情報 Twitterアカウントを新たに開 設し運用を開始。(R01.10)	H30→ 継続 R01→ 継続	・スマートフォン等で閲覧で きる今後の雨の予報を、これま での6時間先から15時間先ま でに延長するよう改善を実 施。(H30.6) ・洪水害発生時の危険度の高ま り等を地図上に表示する「危 険度分布」を、スマートフォン 等の位置情報機能を活用し、 自分のいる場所の「危険度分 布」をワンタッチで表示でき るよう改善を実施。(H30.8) ・台風の接近等による大雨等 により顕著な災害の発生が想 定される、あるいは既に発生 している際に、気象庁が持つ 危機感をより効果的に伝える ために、気象庁防災情報 Twitterアカウントを新たに開 設し運用を開始。(R01.10)	H30→ 継続 R01→ 継続									
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K	・緊急速報メールを活用し た洪水情報のプッシュ型配 信の実施。 (警戒レベルほか配信文を 更新:R1)	H29→ R1	・「危険度分布」における危険 度の高まりをプッシュ型で通 知するサービスを、気象庁の 協力の下で民間の協力事業 者が開始。通知サービスで は、ユーザーが登録した地域 における危険度の変化に気 付くことができるように、ス マートフォンのアプリやメール 等でお知らせする。 (R01.7.10)	R01→ 継続	・「危険度分布」における危険 度の高まりをプッシュ型で通 知するサービスを、気象庁の 協力の下で民間の協力事業 者が開始。通知サービスで は、ユーザーが登録した地域 における危険度の変化に気 付くことができるように、ス マートフォンのアプリやメール 等でお知らせする。 (R01.7.10)	R01→ 継続									
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P															
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C	・既存簡易水位計の活用 の他、危機管理型水位計 の整備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険個所に整備	H28→ R1				・危機管理型水位計の整 備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険個所に整備予定	H29→ R2予定			・危機管理型水位計配置 計画の検討、整備の実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険個所に整備の実施	H29→ R2予定				
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・水防資機材の整備、備蓄 状況の情報共有	継続				・水防資機材・水防拠点の 整備	継続	・水防資機材の整備	継続	・水防資機材・水防拠点の 整備	継続	・水防資機材の整備	継続		
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S.W															
2・ソフト対策の主な取組																		
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な避難行動のための取組																		
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C	・関係市町村に該当する主 要な河川を含めた避難勧 告着目型タイムラインの更 新	H28→ 継続	・H29年6月までに32市町村で 各1河川で作成した避難勧告 着目型タイムラインの作成に あたり技術的支援を実施。引 き続き予定されている避難勧 告着目型タイムラインの充実 においても支援を予定。 ・避難勧告着目型タイムライン について、内閣府の「避難勧 告に関するガイドライン」改正 に沿った形で改良を行うため の協力を行った。 また、札幌建設管理部が実施 した説明会において、防災気 象情報の利活用について解 説を実施した。	H30→ R1	・H29年6月までに32市町村で 各1河川で作成した避難勧告 着目型タイムラインの作成に あたり技術的支援を実施。引 き続き予定されている避難勧 告着目型タイムラインの充実 においても支援を予定。 ・避難勧告着目型タイムライン について、内閣府の「避難勧 告に関するガイドライン」改正 に沿った形で改良を行うため の協力を行った。 また、札幌建設管理部が実施 した説明会において、防災気 象情報の利活用について解 説を実施した。	H30→ R1	・避難勧告着目型タイムラ イン改良版の作成 ・改良版に関する説明会を 開催(R1.9.9)	H29→ R2予定	・道管理河川における避難 勧告着目型タイムライン作 成に係る説明会を実施(R 01.9.9)	R1	・避難勧告着目型タイムラ イン改良版の作成	H29→ R2予定			

項目			課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		旭川地方气象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		旭川建設管理部		上川総合振興局		北海道電力	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮した 流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界を越えた広域避難の計画や 情報伝達について検討	C	・河川管理者タイムラインを策定、更新。(本部R1策定、事務所H30～運用)今後、構成機関と連携を図り、広域避難、情報伝達などについて調整。	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの条件設定にあたり事務局と調整を実施。	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの条件設定にあたり事務局と調整を実施。	H29→ R3以降			・今後、広域避難について関係機関と連携し対応していく。	継続			・今後、広域避難について関係機関と連携し対応していく。	継続	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H29→ R3以降
	③	自治体との事前協議も含めた分かりやすい洪水予報伝達文への改良	C、K	・避難の切迫性が市町村や住民に伝わりやすい洪水予報伝達文へ改良 (H28)警戒レベルの追記 (R1)	H28→ R1	・避難の切迫性が市町村や住民に伝わりやすい洪水予報伝達文へ改良 (H28)警戒レベルの追記 (R1)	H28→ R1	・避難の切迫性が市町村や住民に伝わりやすい洪水予報伝達文へ改良 (H28)警戒レベルの追記 (R1)	H28→ R1										
	④	水位周知河川等に未指定の区間について、指定等を実施	D	H29.3に空知川幾寅地区を水位周知河川へ指定。引き続き未指定区間の指定等を検討予定。	H28→ R3以降					・水位周知河川の追加指定について検討を予定 ・水位周知河川の未指定の河川において簡易な方法も活用して氾濫危険区域図及び河川水位等の情報を提供	H29→ R3以降			・水位周知河川の未指定の河川において簡易な方法も活用して氾濫危険区域図及び河川水位等の情報を提供	H29→ R3以降				
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確保する対策(災对本部の移設等)の検討	F、H																
	⑥	円滑に避難行動を実施するための避難計画の作成	N									・要配慮者の個別避難計画(モデルケース)作成に係る会議に参加 (R01.5.25、6.25、11/12)	継続						
	⑦	情報伝達手段の多重化としてのコミュニティFM放送等との連携の検討	J、K、 L	・メディア連携協議会により、ハザードリスク情報の共有取組の検討(開発局)	R1→ R3以降														
2)平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項	①	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と周知	D	・H29年4月までに想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知、HP公開が完了	H28→ H29				・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知及びHPの公開	H29→ R3以降			・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知及びHPの公開	H29→ R3以降					
	②	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	・ハザードマップ改良に向けた技術的な支援を実施。	H28→ H29														
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるごとまちごとハザードマップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	・まるごとまちごとハザードマップの改良と周知の支援	H30→ R3以降														
	④	水害リスクが高い箇所について、水防団、自治会等との共同点検を実施	D、Q	・平常時に自治体と共に水防団、自治会等と共同点検を実施	継続														
	⑤	警報・注意報発表時の「危険度を色分けした時系列」や「警報級の現象になる可能性」の情報提供	B、K			平成29年5月17日から気象庁ホームページで提供開始。	H29→ H29	平成29年5月17日から気象庁ホームページで提供開始。	H29→ H29										
	⑥	市民等を対象とした防災教育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・小学生を中心とした防災教育を引き続き実施予定 ・出前講座を通じた防災教育	継続	・小学校や中学校における学校防災教育や、自治体防災訓練に展示ブースを設置して防災情報の解説を実施。今後も継続して実施予定。 ・地方公共団体、地域防災リーダー及び市民を対象に、中小河川の氾濫を想定したワークショップを実施。今後も継続して実施予定 (R1)	継続 R1→ 継続	・小学校や中学校における学校防災教育や、自治体防災訓練に展示ブースを設置して防災情報の解説を実施。今後も継続して実施予定。 ・地方公共団体、地域防災リーダー及び市民を対象に、中小河川の氾濫を想定したワークショップを実施。今後も継続して実施予定 (R1)	継続 R1→ 継続		・地域の要望等を踏まえながら関係機関と共に取り組んで行く。 ・地域防災マスター養成研修の実施 (H29,H30,R1) ・1日防災学校の企画・実施支援 (H30,R1) ・市町村が実施する住民を対象とした訓練・研修・講演会への支援 (H30,R1)	継続							
	⑦	自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	C、O																
	⑧	全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	A、O	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続		・石狩川流域圏会議による豪雨災害対策職員研修のサポートを実施。	継続		・石狩川流域圏会議による豪雨災害対策職員研修のサポートを実施。	継続				

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度更新

該当無し

—

未実施:今後取組予定(検討中)

項目			課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		旭川地方气象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		旭川建設管理部		上川総合振興局		北海道電力	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A	・HPIに洪水に関する広報掲載。	継続							関係機関と協力して対応する。 HPIに56災害時の数値的記録を掲載。	継続			関係機関と協力して対応する。	継続		
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K	・ダムからの初期放流時は警報装置の吹鳴、警報車による河川パトロール。地元地域へ放流開始、洪水等に通知。	継続					・ダムからの初期放流時は警報装置の吹鳴、警報車による河川パトロール。地元地域へ放流開始、洪水等に通知。	継続							・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続

(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のための的確な水防活動に関する取組

1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の水防情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の水防情報による内水や外水情報の共有	継続					・市町村向け川の水防情報による内水や外水情報の共有	継続			・市町村向け川の水防情報による内水や外水情報の共有	継続				
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	継続					・重要水防箇所の精査・見直し	継続			・重要水防箇所の精査・見直し	継続				
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D																
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S																
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	・関係機関と連携した水防訓練及び水防技術講習会の実施	継続					・関係機関と連携した水防訓練の実施	継続			・関係機関と連携した水防訓練の実施	継続				
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M																
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	・要配慮者利用施設における避難計画、学校における避難確保計画の作成に関わる情報提供	H29→R3以降														
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	・浸水リスクの説明、水害対策等の啓発活動の継続	H28→R3以降							・H29.3に札建と振興局主催による説明会を実施。 ・機会を捉えて必要な説明を継続実施。	継続			・H29.5に旭川開建と振興局共催による説明会を実施。 ・機会を捉えて必要な説明を継続実施。	継続		

(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のための取組

1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の水防情報による排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の水防情報による排水ポンプ場情報の共有	継続														
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V	・石狩川流域における想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	H30→R3以降														
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続														
2)緊急的な災害復旧	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W	・堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	継続														

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度更新

			課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		旭川地方气象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		旭川建設管理部		上川総合振興局		北海道電力	
項目				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
事に向けた取組強化	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W	・堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	継続														

概ね5年で実施する取組 （雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	北海道警察		滝川市		砂川市		深川市		奈井江町		浦臼町		新十津川町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1・ハード対策の主な取組																	
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W														
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W														
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K														
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K														
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P		・町連協の自動起動FM防 災ラジオの購入支援 ・FM災害時放送強靱化(完 了)	H29→ H30 H30→ R1(完了)	—	—	—	—	防災行政無線(移動系)の 更新整備	R1→ R3以降	防災行政無線(全戸)のア ナログからデジタル化への 移行	R1→ R2	・防災行政無線(アナログ) 全戸配付済み ・防災行政無線デジタル化 への移行	H9→ R1→R2予定	
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C														
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R		・迅速な水防活動を実施支 援するため、水防資機材の 整備	H28→ R3以降	・排水ポンプの点検	継続	・非常用発電機、コードリー ルの整備(各12台) ・排水ポンプを日々作動確 認をし整備を実施	継続	・緊急排水用水中ポンプ (200mm)2台、土嚢等の備 蓄資材	継続	・迅速な水防活動を実施す るため、内水排水ポンプ及 び非常用発電機等の水防 資機材の整備	継続	・急排の建屋完成済 ・排水機場の適正な維持管 理	継続	
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W		・Jアラート新型受信機の導 入 ・防災無線(移動系)デジタ ル化工事	H30→ H30完了 R1→ R2予定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2・ソフト対策の主な取組																	
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な																	
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C		・本格導入に向けて準備検 討	H30→ H30	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済(更新)	H29年→ R1	

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	北海道警察		滝川市		砂川市		深川市		奈井江町		浦臼町		新十津川町		
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮した 流域タイムラインを作成し、 隣接した市町村の境界を越え た広域避難の計画や情報伝達 について検討	C	実行ある避難対策について、 関係機関とともに検討	継続	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画を予定	H28→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画を予定	R1→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画を予定	R2以降	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画を予定	R1→	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画を予定	R2→ R3以降	・情報伝達、避難計画及び近 隣市町との広域避難や連携に 関する流域タイムラインの作 成への参画を予定	R1→ R3以降	
	③	自治体との事前協議も含めた 分かりやすい洪水予報伝達文 への改良	C、K															
	④	水位周知河川等に未指定の区 間について、指定等を実施	D															
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水 時の市町村機能を確認する対 策(災对本部の移設等)の検討	F、H		・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	H28→ R3以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R2以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→ R3以降
	⑥	円滑に避難行動を実施するた めの避難計画の作成	N		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	⑦	情報伝達手段の多重化として のコミュニティーFM放送等と の連携の検討	J、K、 L		・情報伝達手段の多重化とし てのFMなかそらちとの防災 協定の締結をさらに発展させ 連携強化を図る	H28→ R3以降	・地域FM放送を活用し、災 害時の緊急速報等を流し、正 確な情報を伝達する。	継続	・HPを通じての情報伝達 ・広報車などにより情報伝 達	継続	・登録制メールを活用し、災 害時の正確な情報を伝達する。	H30→	—	—	・ホームページ、SNSによ る情報発信	H29→		
2)平時からの住民等への 周知・教育・訓練に関する事項	①	想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図等の作成と周知	D															
	②	想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図に基づいたハザ ードマップの改良と周知	D、E、 F、G、 I		・想定最大規模の浸水想定区 域図に基づき、TLを運用でき る住民目線に立った洪水ハザ ードマップ検討と作成(予定)	R2予定→ R2予定	・平成30年4月に改良及び周 知済み、引き続き防災訓練等 でハザードマップの周知	H29→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいたハ ザードマップの改良と周知を 予定	R1→ R1	・平成30年3月改良、平成3 0年7月全戸配布済	H29→ H30	・平成30年4月に改良及び周 知済み	H29→ H30	・平成30年2月に改良及び周 知済み ・自主防災会に対する出前講 座の実施	H29→		
	③	想定最大規模の洪水に係る浸 水想定区域図に基づいたま るごとまちごとハザードマッ プの改良と周知	D、E、 F、G、 I		・想定最大規模の浸水想定区 域図に基づき、逃げ遅れゼロ を目指すためにまるごとまち ごとハザードマップの検討と 設置(予定)	R2予定 R3以降	—	—	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいたま るごとまちごとハザードマッ プの改良と周知	R3以降→	—	—	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいたま るごとまちごとハザードマッ プの改良と周知	H30→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいたま るごとまちごとハザードマッ プの改良と周知	H29→		
	④	水害リスクが高い箇所につい て、水防団、自治会等との共 同点検を実施	D、Q		・水害リスクが高い箇所の共 同点検実施予定	H28→ R3以降	・水害リスクが高い箇所の共 同点検実施予定	R1→ R3以降	・水害リスクが高い箇所の共 同点検実施予定	R2以降→	・水害リスクが高い箇所の共 同点検実施予定	R1→ R3以降	・水害リスクが高い箇所の共 同点検(町防災担当、町建設 課等関係機関)	R1→ R3以降	・水防団による石狩川堤防の パトロール	継続		
	⑤	警報・注意報発表時の「危険 度を色分けした時系列」や「 警報級の現象になる可能性」 の情報提供	B、K															
	⑥	市民等を対象とした防災教育 の実施、防災意識の啓発	A、D、E		警察の災害警備訓練に住民 が参加する訓練を取り入れる など、地域内の災害対処能力 を高める取組を実施	継続	・水害想定した防災訓練(隔 年)(避難行動訓練、炊出し訓 練、避難所運営訓練、防災展 示・体験、子ども水防体験教 室 訓練参加者220名)(H30.8 .18)	H30→ H30 R2予定→ R2予定	・ハザードマップの説明を含 めた避難訓練、初期消火訓練 、炊き出し訓練等	継続	・町内会又は自主防災組織 での災害訓練を実施(流水歩 行訓練、炊出し訓練、救出訓 練、屈折はしご車訓練、避難 訓練、消火訓練、煙体験訓練 、救命講習 訓練参加者318 名)(R1.11.8)	継続	・住民を対象とした地域防災 セミナー(R01.07.02)を実 施	R1→ R1	・小学生を対象とした防災教 育の実施 ・防災ハンドブックの全戸配 付 ・非常用持出グッズの配付	継続	・3年に1回総合防災訓練を 実施(H30.8.26洪水を想定 した訓練を実施) ・自主防災会に対する出前講 座の実施	H18→
	⑦	自治体首長が参加する水防災 訓練を実施し、その実施結果 を踏まえた流域タイムライン 等の見直し・修正	C、O		・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定 ・普及版タイムライン(連携型) の本格運用準備として検討会 及び訓練実施	H28→ R3以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R2以降→	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況 をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・首長等が参加する水防訓練 を実施し、その実施結果を 踏まえた流域タイムライン等 の見直し・修正	R1→ R3以降	・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	継続
	⑧	全ての流域市町村の職員を対 象とした「豪雨災害対策研修」 の継続実施	A、O		・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	H28→ R3以降	・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7 月)に職員を派遣	継続

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	北海道警察		滝川市		砂川市		深川市		奈井江町		浦臼町		新十津川町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A			住民の水防意識の啓発の為、チラシを配布（「向こう3軒両隣」：町内会回覧等）	H28→ R3以降	・防災訓練や出前講座等を通じS56年を含む過去の被害を紹介	R1→ R3以降	・防災講習の中で、深川市で一番大きな被害額の被害としてS56災害を紹介	継続	・防災ハザードマップにS56洪水の写真を掲載	H28→ R3以降	・住民の水防意識啓発	H28→ R3以降	・H30.8.26総合防災訓練において、S56災のビデオコーナーを設置して周知	H30→
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K			—	—			・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続			・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続	・土地改良区と連携した地元関係者へ周知	継続
(2)多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため																	
1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P			・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中 ※水防災ランチャーのモデル事業	H28→ R3以降	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q			・水防団等との共同点検等の実施を予定	H28→ R3以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1→ R3以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1→	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1→ R3以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1予定→
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D			・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいて地域防災計画に図面を入れた。また浸水想定区域にある指定緊急避難場所の指定を変更した。	H31→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H29→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	R2以降→	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H29→
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S			・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	H28→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R2以降→	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や水防訓練の実施を検討	R1→ R3以降
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	水防訓練への参加を通じた対処能力の向上と関係機関との連携	継続	・被害を想定した防災訓練（H30.8.18）にて連携した取組を実施	H28→ R3以降	・地域防災訓練にて連携した取組を実施	H30→ R3以降	・防災訓練を通じて連携した取り組みを実施	継続	・総合防災訓練（R2.07）にて関係機関と連携した取組を実施予定	R2→	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・総合防災訓練（H30.8.26）にて連携した取組を実施	H29→
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M			—	—	—	—	・水防団員数の確保に向け、現職団員による勧誘やポスター等による周知	継続	・水防団員数の確保	継続	・ポスター掲示や関係機関と連携し水防団活動等を周知し、水防団員の確保を図る。	継続	・救急排水場及び排水機場を運営する水防団員を確保するため、町建設協会に依頼するとともに広報誌等で周知	H26→
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	警察の災害警備訓練において、要配慮者利用施設が参加する訓練を取り入れるなど、災害対処能力を高める取組を実施	継続	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	H28→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R2以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	R1予定→
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と被害対策等の啓発活動	N			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	・各施設の避難計画の作成支援 ・福祉施設の防災研修の推進	H25→
(3)広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のため																	
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P			・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	H28→ R3以降	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V														
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U			・江部乙救急排水機場のポンプ排水訓練を実施（江部乙救急排水施設（江部乙、川3号樋門））	H28→ R3以降	・排水ポンプ車等による訓練の実施 場所：豊沼5号樋門 機械：排水ポンプ	継続	・深川排水機場、排水ポンプ訓練の実施	継続	・奈井江・高島の各排水機場のポンプ排水訓練の実施 場所：奈井江13号樋門・茶志内4号樋門	継続	・関係機関と連携した排水訓練等の実施	継続	・6月に新十津川、下徳富、袋地3箇所の救急排水機場のポンプ排水訓練を実施	継続
2)緊急的な災害復旧	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W														

概ね5年で実施する取組 （雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	北海道警察		滝川市		砂川市		深川市		奈井江町		浦臼町		新十津川町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
事に向けた取組強化	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W														

概ね5年で実施する取組 （雨竜川外地域部会）

項目		課題の 対応	妹背牛町		秩父別町		雨竜町		北竜町		沼田町		幌加内町		上砂川町		
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	
1・ハード対策の主な取組																	
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W														
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W														
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K														
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K														
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P	・防災行政無線（同報系） の新設	R2以降	・防災行政無線の改良につ いて検討（アナログ→デジ タル）	R1→ R3以降	—	—	・情報伝達手段の多重化 検討（防災行政無線更新 事業に伴い検討）	R1→ R3以降	—	—	—	—	—	
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C														
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・迅速な水防活動を支援す るため、水防資機材の整 備	継続	・迅速な水防活動を支援す るため、排水用ポンプ、土 のう等の水防資機材の整 備	継続	・庁舎裏に設置した車庫内 に防災資材庫を設置し、防 災備蓄品を保管	継続	・迅速な水防活動を支援 するため、水防資機材の 整備	継続	・H30は避難所用物品を充 実させるため、水防活動 にも使用可能な投光器、 発電機等を整備した。	継続	各避難所にポータブル発 電機を設置。 土のう袋の補充。	継続	・迅速な水防活動を支援 するため、水防資機材の 整備	継続
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2・ソフト対策の主な取組																	
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な																	
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ R1以降	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ R1以降	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	H29→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 済	R1→ R3以降

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	妹背牛町		秩父別町		雨竜町		北竜町		沼田町		幌加内町		上砂川町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定最大規模の洪水等を考慮した流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界を越えた広域避難の計画や情報伝達について検討	C	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画を予定	R1以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画を予定	R1→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画を予定	R1→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画を予定	R1→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画を予定	R1以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画を予定	R1→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画を予定	R1→R3以降
	③	自治体との事前協議も含めた分かりやすい洪水予報伝達文への改良	C、K														
	④	水位周知河川等に未指定の区間について、指定等を実施	D														
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	F、H	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降	・洪水時の町機能を確認する対策(災害本部の移設等)の検討	R1以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降
	⑥	円滑に避難行動を実施するための避難計画の作成	N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	⑦	情報伝達手段の多重化としてのコミュニティFM放送等との連携の検討	J、K、L	・情報伝達手段の多重化の検討	R2以降	—	—	—	—	—	—	—	—	・HPやスマートフォンアプリを通じての情報伝達 ・広報車などにより情報伝達	継続	・HPを通じての情報伝達 ・広報車などにより情報伝達 ・登録制メールを活用した情報伝達	継続
2)平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項	①	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と周知	D														
	②	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	・平成29年9月改良、10月に全戸に配布済み	H29→H29	・平成29年3月に改良及び周知済み	H29→H29	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知の予定	H29→R3以降	・平成30年3月に改良及び周知済み	H29→H30	・平成29年9月改良、10月に全戸に配布済み	H29→R1以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知の予定	H29→R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知の予定	H30→R3以降
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまちごとハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまちごとハザードマップの改良と周知	R1以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまちごとハザードマップの改良と周知	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまちごとハザードマップの改良と周知	H30→R3以降	—	—	—	—	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるとまちごとハザードマップの改良と周知	H30→R3以降	—	—
	④	水害リスクが高い箇所について、水防団、自治会等との共同点検を実施	D、Q	・水害リスクが高い箇所の共同点検実施予定	R1以降	・水害リスクが高い箇所の共同点検実施予定	R1→R3以降	・水害リスクが高い箇所の共同点検実施予定	R1→R3以降	・町防災担当、町建設課、消防北竜支署で水害リスクが高い箇所の共同点検を実施	継続	・共成地区において沼田消防団と実施	継続	・幌加内、長留内、振興計6箇所、自治区長と現地確認	継続	・水害リスクが高い箇所の共同点検実施予定	R1→R3以降
	⑤	警報・注意報発表時の「危険度を色分けした時系列」や「警報級の現象になる可能性」の情報提供	B、K														
	⑥	市民等を対象とした防災教育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・秩父別町防災訓練(R1.10.26)にて連携した取組を実施	継続	・町広報誌において防災に関する記事を年4回程度掲載	継続	・地域の実情に合わせた防災訓練を隔年実施。	継続	・地域の実情に合わせた防災訓練を実施。	継続	・平成27年度から毎年防災研修会を実施。H30は沼田小学校を避難所とする地域を対象とした「沼田町防災訓練」を実施。	継続	・地域防災訓練の実施 ・災害対策懇談会の実施	継続	・防災ガイドブックを転入者へ配布(平成28年3月保存版) ・防災ガイドブックを配布(令和元年5月保存版) ・中学校において防災教育を実施	継続
	⑦	自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	C、O	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降	・自治体首長が参加する水防訓練を実施	R1以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降
	⑧	全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	A、O	・「豪雨災害対策研修」(7月)に職員を派遣	継続	・平成31年以降職員派遣予定	R1→R3以降	・「豪雨災害対策研修」(7月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7月)に職員を派遣	継続	・「豪雨災害対策研修」(7月)に職員を派遣	継続

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	妹背牛町		秩父別町		雨竜町		北竜町		沼田町		幌加内町		上砂川町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	H29→	・大雨災害から身を守ることを目的に、避難場所や大雨災害時の行動などを年に1度広報誌に掲載	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	H30→ R3以降	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の町広報紙等を通じて実施	H28→ R3以降	・広報誌または防災訓練に合わせた周知を実施	継続	・住民の水防意識啓発のため広報で住民へ周知	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続	・出水時期に広報誌で住民へ出水注意に関するお知らせ	継続	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続	・広報紙により周知を実施	継続	・災害対策懇談会の実施	継続		
(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため																	
1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1→ R3以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1→ R3以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1→ R3以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1以降	・水防団等との共同点検等の実施を予定	R1→ R3以降	—	—
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H29→	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	R1→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	R1以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→ R3以降	—	—
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	H30→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	R1以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	・消防団・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施予定	R1以降	・秩父別町防災訓練(H30.10.13)にて連携した取組を実施	継続	・水防団・町内会組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・町内会組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・沼田町防災訓練(H30.7.12)にて連携した取組を実施	継続	・災害時避難訓練にて連携した取組を実施 ・職員による土のう製作訓練	H30→ R3以降	—	—
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M	消防と連携し、事業所や地域住民に加入を働きかけ水防団員数を確保	継続	・若者への水防団員勧誘	継続	・関係機関と連携し水防団活動等の重要性を伝え、水防団員の確保を図る	H30→ R3以降	・関係機関と連携し水防団活動等の重要性を伝え、若者への団員勧誘。	継続	—	—	・水防団員数の確保については、消防団員と兼務している状況で、併せて募集に取り組んでいる状況。支援の強化については、検討中	H30→ R3以降	—	—
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R21以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の実施	R1以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→ R3以降
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	—	—	—	—	—	—	—	—	・沼田町災害時要援護者避難支援計画に基づく支援	継続	両案件とも検討中。	H29→ R3以降	—	—
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のため																	
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、 V														
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	・6月に千秋救急排水機場のポンプ排水訓練を実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練を秩父別町5条1丁目第一幹線水路にて実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練の実施予定	R1→ R3以降	・排水ポンプ車等による訓練の実施予定	継続	・北竜地区において排水機場ポンプを利用した訓練を実施	継続	・排水ポンプ車等による訓練実施の検討予定	R1→ R3以降	—	—
2)緊急的な災害復旧	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W														

概ね5年で実施する取組 （雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	妹背牛町		秩父別町		雨竜町		北竜町		沼田町		幌加内町		上砂川町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
事に向けた取組強化	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W														

概ね5年で実施する取組 （雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	歌志内市	
				業務内容	時期
1・ハード対策の主な取組					
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W		
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W		
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K		
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K		
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P	—	—
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C		
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・市内10カ所に土のうス テーションを設置し迅速な 対応を行うための整備を 行った。(平成30年度2カ 所追加)	H29→ H30
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W	—	—
2・ソフト対策の主な取組					
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な					
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成	H30→ R3以降

概ね5年で実施する取組 （雨竜川外地域部会）

項目		課題の 対応	歌志内市		
			業務内容	時期	
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮し た流域タイムラインを作成 し、隣接した市町村の境界 を越えた広域避難の計画や 情報伝達について検討	C	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画 を予定	R1→ R3以降
	③	自治体との事前協議も含め た分かりやすい洪水予報伝 達文への改良	C、K		
	④	水位周知河川等に未指定 の区間について、指定等を実 施	D		
	⑤	流域タイムラインを用いた洪 水時の市町村機能を確認 する対策（災对本部の移設 等）の検討	F、H	・流域タイムライン作成状 況をみつつ検討予定	R1→ R3以降
	⑥	円滑に避難行動を実施する ための避難計画の作成	N	—	—
	⑦	情報伝達手段の多重化とし てのコミュニティーFM放送 等との連携の検討	J、K、 L	・災害の情報をHPを通じ て伝達している。 ・防災無線、広報車などに より情報伝達している。 ・登録制メールを活用し情 報伝達している。	継続
2)平時からの住民等へ の周知・教育・訓練に関 する事項	①	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図等の作成と 周知	D		
	②	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周 知	D、E、 F、G、 I	・想定最大規模の洪水に 係る浸水想定区域図に基 づいたハザードマップの改 良と周知の予定	H29→ R3以降
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた まるごとまちごとハザード マップの改良と周知	D、E、 F、G、 I	—	—
	④	水害リスクが高い箇所につ いて、水防団、自治会等と の共同点検を実施	D、Q	・水害リスクが高い箇所の 共同点検実施予定	R1→ R3以降
	⑤	警報・注意報発表時の「危 険度を色分けした時系列」 や「警報級の現象になる可 能性」の情報提供	B、K		
	⑥	市民等を対象とした防災教 育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・地域防災訓練の実施	継続
	⑦	自治体首長が参加する水 防災訓練を実施し、その実 施結果を踏まえた流域タイ ムライン等の見直し・修正	C、O	・流域タイムライン作成状 況をみつつ検討予定	R1→ R3以降
	⑧	全ての流域市町村の職員を 対象とした「豪雨災害対策 研修」の継続実施	A、O	・平成31年以降職員派遣 予定	R1→ R3以降

概ね5年で実施する取組（雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	歌志内市	
				業務内容	時期
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	H28→R3以降
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K		
(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため					
1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報を活用中	継続
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q	—	—
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D	—	—
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	・合同非常招集訓練と連携した避難訓練（R1.9.2）に市・消防署・消防団・町内会・歌志内市赤十字奉仕団・食生活改善推進員が連携し防災訓練を実施	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M	—	—
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	・流域タイムライン作成状況をみつつ検討予定	R1→R3以降
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N	—	—
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のため					
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P	・市町村向け川の防災情報による内水情報を活用中	継続
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V		
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U	・排水ポンプ車等による訓練実施の検討予定	R1→R3以降
2)緊急的な災害復旧	①	堤防決壊シミュレーションによる現地条件を考慮した効果的な災害復旧方法の検討	W		

概ね5年で実施する取組 （雨竜川外地域部会）

項目			課題の 対応	歌志内市	
				業務内容	時期
事に向けた取組強化	②	堤防決壊シミュレーションにおける堤防天端を活用した緊急輸送路の活用検討	W		

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		旭川地方気象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		旭川建設管理部		上川総合振興局		北海道電力	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1・ハード対策の主な取組																		
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W	・堤防整備、河道掘削及 び河道内伐木を実施 ・雨竜川ダム再生事業の 調査検討	継続					・堤防整備、河道掘削及 び河道内伐木を実施	継続				・河道掘削及び伐木、護 岸工等を実施	継続		
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W	・堤防決壊までの時間を 少しでも引き延ばすため の危機管理型ハード対策 (天端保護工)を継続	H28→ R2予定					・堤防決壊までの時間を 少しでも引き延ばすため の危機管理型ハード対策 (天端保護工)を継続	H29→ R3予定				・堤防決壊までの時間を 少しでも引き延ばすため の危機管理型ハード対策 (天端保護工)を継続	H30→ R3以降		
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K	・川の防災情報、河川リア ルタイム情報のスマート フォンによる利用 ・水害リスクラインのHP公 開(R2出水期までに)	H28→ R2予定	・スマートフォン等で閲覧できる 今後の雨の予報を、これまで の6時間先から15時間先まで に延長するよう改善を実施。 (H30.6) ・洪水害発生 の危険度の高ま り等を地図上に表示する「危険 度分布」を、スマートフォン等 の位置情報機能を活用し、自 分のいる場所の「危険度分布」 をワンタッチで表示できるよう改 善を実施。(H30.8) ・台風の接近等による大雨等 により顕著な災害の発生が想 定される、あるいは既に発生し ている際に、気象庁が持つ危 機感をより効果的に伝えるた めに、気象庁防災情報Twitter アカウントを新たに開設し運用 を開始。(R01.10)	H30→継 続 R01→継 続	・スマートフォン等で閲覧できる 今後の雨の予報を、これまで の6時間先から15時間先まで に延長するよう改善を実施。 (H30.6) ・洪水害発生 の危険度の高ま り等を地図上に表示する「危険 度分布」を、スマートフォン等 の位置情報機能を活用し、自 分のいる場所の「危険度分布」 をワンタッチで表示できるよう改 善を実施。(H30.8) ・台風の接近等による大雨等 により顕著な災害の発生が想 定される、あるいは既に発生し ている際に、気象庁が持つ危 機感をより効果的に伝えるた めに、気象庁防災情報Twitter アカウントを新たに開設し運用 を開始。(R01.10)	H30→継 続 R01→継 続									
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K	・緊急速報メールを活用し た洪水情報のプッシュ型 配信の実施。 (警戒レベルほか配信文 を更新:R1)	H29→ R1	・「危険度分布II」における危険 度の高まりをプッシュ型で通知 するサービスを、気象庁の協 力の下で民間の協力事業者が 開始。通知サービスでは、ユー ザーが登録した地域における 危険度の変化に気付くことがで きるように、スマートフォンのア プリやメール等でお知らせす る。(R01.7.10)	R01→継 続	・「危険度分布II」における危険 度の高まりをプッシュ型で通知 するサービスを、気象庁の協 力の下で民間の協力事業者が 開始。通知サービスでは、ユー ザーが登録した地域における 危険度の変化に気付くことがで きるように、スマートフォンのア プリやメール等でお知らせす る。(R01.7.10)	R01→継 続									
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P															
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C	・既存簡易水位計の活用 の他、危機管理型水位計 の整備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険箇所に整備	H28→ R1				・危機管理型水位計の整 備を実施 ・簡易型河川監視カメラを 危険箇所に整備予定	H29→ R2予定			・既存簡易水位計の活用 の他、危機管理型水位計 の整備を実施。 ・簡易型河川監視カメラを 危険箇所に整備を実施	H29→ R2予定				
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R	・水防資機材の整備、備 蓄状況の情報共有	継続				・水防資機材・水防拠点の 整備	継続	・水防資機材の整備	継続	・水防資機材・水防拠点の 整備	継続	・水防資機材の整備	継続		
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W															
2・ソフト対策の主な取組																		
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な避難行動のための取組																		
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C	・関係市町村に該当する 主要な河川を含めた避難 勧告着目型タイムライン の更新	H28→ 継続	・H29年6月までに32市町村で 各1河川で作成した避難勧告 着目型タイムラインの作成にあ たり技術的支援を実施。引き 続き予定されている避難勧告 着目型タイムラインの充実にお いても支援を予定。 ・避難勧告着目型タイムライン について、内閣府の「避難勧告 に関するガイドライン」改正に 沿った形で改良を行うための 協力を行った。 また、札幌建設管理部が実施 した説明会において、防災気 象情報の利活用について解説 を実施した。	H30→ R1	・H29年6月までに32市町村で 各1河川で作成した避難勧告 着目型タイムラインの作成にあ たり技術的支援を実施。引き 続き予定されている避難勧告 着目型タイムラインの充実にお いても支援を予定。 ・避難勧告着目型タイムライン について、内閣府の「避難勧告 に関するガイドライン」改正に 沿った形で改良を行うための 協力を行った。 また、札幌建設管理部が実施 した説明会において、防災気 象情報の利活用について解説 を実施した。	H30→ R1	・避難勧告着目型タイムラ イン改良版の作成 ・改良版に関する説明会を 開催(R1.9.9)	H29→ R2予定	・道管理河川における避 難勧告着目型タイムライ ン作成に係る説明会を実 施(R01.9.9)	R1	・避難勧告着目型タイムラ イン改良版の作成	H29→ R2予定			

概ね5年で実施する取組（空知川地域部会）				2019年12月更新		赤字:今年度記載更新			該当無し	－	未実施:今後取組予定(検討中)									
項目				課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区気象台		旭川地方気象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		旭川建設管理部		上川総合振興局		北海道電力	
					業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定最大規模の洪水等を考慮した流域タイムラインを作成し、隣接した市町村の境界を越えた広域避難の計画や情報伝達について検討	C	・河川管理者タイムラインを策定、更新。(本部R1策定、事務所H30～運用)今後、構成機関と連携を図り、広域避難、情報伝達などについて調整。	H29→R3以降	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの条件設定にあたり事務局と調整を実施。	H29→R3以降				・今後、広域避難について関係機関と連携し対応していく。	継続			・今後、広域避難について関係機関と連携し対応していく。	継続	・情報伝達、避難計画及び近隣市町との広域避難や連携に関する流域タイムラインの作成への参画	H29→R3以降		
	③	自治体との事前協議も含めた分かりやすい洪水予報伝達文への改良	C、K	・避難の切迫性が市町村や住民に伝わりやすい洪水予報伝達文へ改良(H28)警戒レベルの追記(R1)	H28→R1	・避難の切迫性が市町村や住民に伝わりやすい洪水予報伝達文へ改良(H28)警戒レベルの追記(R1)	H28→R1													
	④	水位周知河川等に未指定の区間について、指定等を実施	D	H29.3に空知川幾寅地区を水位周知河川へ指定。引き続き未指定区間の指定等を検討予定。	H28→R3以降				・水位周知河川の追加指定について検討を予定 ・水位周知河川の未指定の河川において簡易な方法も活用して氾濫危険区域図及び河川水位等の情報を提供	H29→R3以降				・H29.7に空知川幾寅地区を水位周知河川へ指定。引き続き未指定区間の指定等を検討予定。 ・水位周知河川の未指定の河川において簡易な方法も活用して氾濫危険区域図及び河川水位等の情報を提供	H29→R3以降					
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災対本部の移設等)の検討	F、H																	
	⑥	円滑に避難行動を実施するための避難計画の作成	N									・要配慮者の個別避難計画(モデルケース)作成に係る会議に参加(R01.5.25、6.25、11/12)	継続							
	⑦	情報伝達手段の多重化としてのコミュニティーFM放送等との連携の検討	J、K、L	・メディア連携協議会により、ハザードリスク情報の共有取組の検討(開発局)	R1→R3以降															
2)平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項	①	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と周知	D	・H29年4月までに想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知、HP公開が完了	H28→H29				・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知及びHPの公開	H29→R3以降				・R元年年7月までに想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等の作成と各自治体への周知、HP公開が完了	H29→R1					
	②	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	・ハザードマップ改良に向けた技術的な支援を実施。	H28→H29															
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいたまるごとまちごとハザードマップの改良と周知	D、E、F、G、I	・まるごとまちごとハザードマップの改良と周知の支援	H30→R3以降															
	④	水害リスクが高い箇所について、水防団、自治会等との共同点検を実施	D、Q	・平常時に自治体と共に水防団、自治会等との共同点検を実施	継続															
	⑤	警報・注意報発表時の「危険度を色分けした時系列」や「警報級の現象になる可能性」の情報提供	B、K			平成29年5月17日から気象庁ホームページで提供開始。	H29→H29	平成29年5月17日から気象庁ホームページで提供開始。	H29→H29											
	⑥	市民等を対象とした防災教育の実施、防災意識の啓発	A、D、E	・小学生を中心とした防災教育を引き続き実施予定 ・出前講座を通じた防災教育	継続	・小学校や中学校における学校防災教育や、自治体防災訓練に展示ブースを設置して防災情報の解説を実施。今後も継続して実施予定。 ・地方公共団体、地域防災リーダー及び市民を対象に、中小河川の氾濫を想定したワークショップを実施。今後も継続して実施予定(R1)	継続R1→継続	・小学校や中学校における学校防災教育や、自治体防災訓練に展示ブースを設置して防災情報の解説を実施。今後も継続して実施予定。 ・地方公共団体、地域防災リーダー及び市民を対象に、中小河川の氾濫を想定したワークショップを実施。今後も継続して実施予定(R1)	継続R1→継続		・地域の要望等を踏まえながら関係機関と共に取り組んで行く。 ・地域防災マスター認定研修実施(R1.8.18及び25)	継続			・地域の要望等を踏まえながら開発局、気象台と共に取り組んで行く。 ・Do!はぐマスター養成研修の実施(H29.H30.R1) ・1日防災学校の企画・実施支援(H30.R1) ・市町村が実施する住民を対象とした訓練・研修・講演会への支援(H30.R1)	継続				
	⑦	自治体首長が参加する水防災訓練を実施し、その実施結果を踏まえた流域タイムライン等の見直し・修正	C、O																	

概ね5年で実施する取組（空知川地域部会）				2019年12月更新		赤字:今年度記載更新																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
----------------------	--	--	--	------------	--	------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

概ね5年で実施する取組（空知川地域部会）

2019年12月更新

赤字:今年度記載更新

項目		課題の 対応	札幌開発建設部		札幌管区气象台		旭川地方气象台		札幌建設管理部		空知総合振興局		旭川建設管理部		上川総合振興局		北海道電力	
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
2)緊急的な災害復旧工 事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションに よる現地条件を考慮した効 果的な災害復旧方法の検 討	W	・堤防決壊シミュレーショ ンによる現地条件を考慮 した効果的な災害復旧方 法の検討	継続													
	②	堤防決壊シミュレーションに おける堤防天端を活用した 緊急輸送路の活用検討	W	・堤防決壊シミュレーショ ンにおける堤防天端を活 用した緊急輸送路の活用 検討	継続													

概ね5年で実施する取組 （空知川地域部会）

項目		課題の 対応	北海道警察		芦別市		赤平市		富良野市		上富良野町		中富良野町		南富良野町		
			業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	
1・ハード対策の主な取組																	
1)洪水氾濫を未然に防 ぐ対策	① ～ ⑤	堤防整備、河道掘削、河道 内伐木、流域貯留施設整 備、遊水地整備、幾春別川 ダムの早期完成等	W														
2)大規模水害による壊 滅的な被害を軽減する 対策	①	各河川での危機管理型 ハード対策の実施(堤防天 端の保護、堤防法尻の補 強)	W														
3)避難行動、水防活 動、排水活動に資する 基盤等の整備	①	住民の避難行動を促し、迅 速な水防活動を支援するた め、スマートフォンを活用し たリアルタイム情報を提供 するためのシステム構築	J、K														
	②	洪水予報等をプッシュ型で 情報発信するためのシステ ム構築	J、K														
	③	防災行政無線の改良や防 災ラジオ等の活用検討	J、K、 P			－	－	－	－	・防災行政無線の更新に ついて検討(アナログ→デ ジタル)	R1以降→	・防災行政無線の更新(ア ナログ→デジタル) R2 実施設計 R3～4 整備工事	R2→ R4	・町内全戸に防災行政戸 別受信機を貸与し、災害 時の速やかな避難行動を 可能にする。 ・防災行政無線の更新 (アナログ→デジタル)	継続 R2→ R3以降	・防災行政無線の整備に 向けた検討	H28→ R3以降
	④	水害リスクが高い箇所に対 して、洪水時の避難勧告等 の発令判断に活用する水位 計の整備	C									・設置された危機管理型 水位計の活用	継続				
	⑤	迅速な水防活動を支援す るための水防資機材の整備	R			・迅速な水防活動を支援 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を実施 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を支援 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を支援 するため、水防資機材の 整備	継続	・迅速な水防活動を支援 するため、水防資機材の 整備	継続
	⑥	水防活動等の迅速化、水害 対策に活用出来るハードの 整備	S,W			－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2・ソフト対策の主な取組																	
(1)大規模な洪水氾濫に対して、広域的な連携を含む円滑かつ確実な																	
	①	避難勧告等の発令に着目し たタイムラインの作成	C			・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作 成、更新	H28→ H29	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作 成、更新	H28→ R3以降	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 →作成済み(道管理河川 については今年度より試 験運用開始)	H29→ R1	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインを作成 ・避難勧告等の発令に着 目した地域防災計画(水 害・土砂災害対策編)の見 直し	R1→ R1	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作成 →防災訓練に当たり町の 対応について再整理を行 い、反映したタイムライ ンを作成中	R1→ R2	・避難勧告等の発令に着 目したタイムラインの作 成、更新	H29→ H30

概ね5年で実施する取組（空知川地域部会）

項目			課題の 対応	北海道警察		芦別市		赤平市		富良野市		上富良野町		中富良野町		南富良野町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
1)情報伝達、避難計画 等に関する事項	②	洪水が広範囲に及ぶ想定 最大規模の洪水等を考慮し た流域タイムラインを作成 し、隣接した市町村の境界 を越えた広域避難の計画や 情報伝達について検討	C	実行ある避難対策につい て、関係機関とともに検討	継続	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画 →未実施、次年度以降実 施予定	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画 (検討) R1→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画	H29→ R3以降	・情報伝達、避難計画及 び近隣市町との広域避難 や連携に関する流域タイ ムラインの作成への参画 →札幌開建と連携し、DIG 訓練等を通じてタイムライ ン作成に向けた取組を実 施予定	H29→ R3以降	
	③	自治体との事前協議も含め た分かりやすい洪水予報伝 達文への改良	C、K														
	④	水位周知河川等に未指定 の区間について、指定等を実 施	D														
	⑤	流域タイムラインを用いた洪水 時の市町村機能を確認 する対策(災对本部の移設 等)の検討	F、H		・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ H28	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ R3以降	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ R3以降	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	R1→ R2	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ R3以降	・流域タイムラインを用いた洪水時の市町村機能を確認する対策(災对本部の移設等)の検討	H28→ R3以降	
	⑥	円滑に避難行動を実施する ための避難計画の作成	N		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	⑦	情報伝達手段の多重化として のコミュニティーFM放送 等との連携の検討	J、K、 L		—	—	・情報伝達手段の多重化として のコミュニティーFM放送との 連携の検討	継続	・情報伝達手段の多重化として のコミュニティーFM放送安全 安心メール、エリアメールの活用	継続	・情報伝達手段の多重化として のコミュニティーFM放送安全 安心メール、エリアメールの活用 (富良野市と防災協定)	継続	—	—	—	—	
2)平時からの住民等へ の周知・教育・訓練に 関する事項	①	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図等の作成と 周知	D														
	②	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周 知	D、E、 F、G、 I		・想定最大規模ハザード マップ作製済み ・市ホームページに掲載	H30→ H30	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知 ⇒平成29年8月広報と一緒に 全戸配布済	H28→ H29	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知 →R1作成済(R1.6月配布)	H30→ R1	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知 (平成31年3月更新) →R1作成済(R1.6月配布) ・出前講座におけるハザード マップの説明・周知	継続	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知 →H30作成済(H31.4月全戸 配布 転入者に都度配布)	H30→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた ハザードマップの改良と周知	H29→ H29	
	③	想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた まごまごハザードマップの 改良と周知	D、E、 F、G、 I		—	—	—	—	・想定最大規模の洪水に係る 浸水想定区域図に基づいた まごまごハザードマップの 改良と周知 →次年度以降実施予定	R1→ R2	—	—	—	—	—	—	
	④	水害リスクが高い箇所につ いて、水防団、自治会等との 共同点検を実施	D、Q		・水害リスクが高い箇所の 共同点検	R3以降→	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の 共同点検 →未実施、次年度以降実 施予定	継続	・水害リスクが高い箇所の 自治会(自主防災組織)との 共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	・水害リスクが高い箇所の 共同点検	継続	
	⑤	警報・注意報発表時の「危 険度を色分けした時系列」 や「警報級の現象になる可 能性」の情報提供	B、K														
	⑥	市民等を対象とした防災教 育の実施、防災意識の啓発	A、D、E		警察の災害警備訓練に住 民が参加する訓練を取り 入れるなど、地域内の災 害対処能力を高める取組 を実施	継続	・市民を対象とした防災教 育の実施	継続	・小中学生を対象とした防 災教育の実施⇒平成30年 度に北海道共催事業「一 日防災学校」を実施 (H30/9/4)	H30→ R3以降	・市民を対象とした防災教 育(出前講座等)の実施。	継続	・小中学生・高校生及び教 員を対象とした防災教育 の実施 ・住民を対象とした出前講 座の実施(H30年14回開 催)	継続	・小中学生を対象とした防 災教育の実施 ・北海道実践的教育モデ ル構築事業に伴う委員会 を立上げ、危険予測・回 避の能力を身に付けさせ る安全教育モデルの開発を 行う	H30→ R1	
	⑦	自治体首長が参加する水 防災訓練を実施し、その実 施結果を踏まえた流域タイ ムライン等の見直し・修正	C、O		・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	継続	・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	H30→ R3以降	・水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正 →未実施、次年度以降実 施予定	R1以降→	・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正 (検討) R1→ R3以降	・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正 →防災訓練に当たり町の 対応について再整理を行 い、反映したタイムライ ンを作成中	H30→ R3以降	・自治体首長が参加する 水防災訓練を実施し、そ の実施結果を踏まえた流 域タイムライン等の見直 し・修正	H30→ R3以降		

概ね5年で実施する取組（空知川地域部会）

項目			課題の 対応	北海道警察		芦別市		赤平市		富良野市		上富良野町		中富良野町		南富良野町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
	⑧	全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	A、O			・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続実施	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の参加	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続参加	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の継続参加	継続	・全ての流域市町村の職員を対象とした「豪雨災害対策研修」の検討	継続
	⑨	住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	A			・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発	継続	・住民の水防意識啓発のため、広報の充実	継続	・住民の水防意識啓発のため、 出前講座による啓蒙・啓発	継続	・住民の水防意識啓発のため広報の充実 →広報誌への記事掲載や防災パンフレットの配布	継続	・住民の水防意識啓発のため、S56洪水等の広報の充実	継続
	⑩	ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	K			—	—	—	—	・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続					・ダム警戒体制に関する地元関係者への周知	継続
(2) 多数の箇所での長期間の活動に備える社会経済被害軽減のため																	
1)水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による河川水位や排水ポンプ場情報の共有	P			・市町村向け川の防災情報による 河川水位情報 の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水や外水情報の共有	継続
	②	水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し	Q			—	—	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し →未実施、次年度以降実施予定	H30→ R3以降	・水防団等との共同点検等の実施及び重要水防箇所の精査・見直し →未実施、次年度以降実施予定	R2以降→					・水防団等との共同点検等の実施	継続
	③	想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	D			・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→ R3以降	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた 水防計画の見直し→R1見直し完了(随時見直し)	R1→R1	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた 水防計画の見直し→H30見直し完了(随時見直し)	継続	・想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図に基づいた水防計画の見直し	H30→ R3以降
	④	流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や多様な主体による水防活動の検討	C、S			・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施や 多様な主体となる水防訓練の検討	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H29→ R3以降	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施 →未実施、次年度以降実施予定	R2以降→	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施 →自主防災会防災訓練にあわせて実施	継続	・流域タイムラインを活用した水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施	H30→ R3以降
	⑤	水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	S	水防訓練への参加を通じた対処能力の向上と関係機関との連携	継続	・消防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施 →防災訓練時に消防団を中心とした水防訓練を実施した。	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	継続	・水防団・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した 水防訓練の実施→H30.10.10総合防災訓練、R1.6.25災害対策本部実施	継続	・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施 →各住民会自主防災組織において実施	継続	・自主防災組織・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施 →H29は宇文自主防災会において実施	継続	・水防団・消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施 →防災の日に併せて、町民参加の避難訓練を実施	継続
	⑥	広報や勧誘などの活動による水防団員数の確保	M			—	—	・水防団員数の確保（消防団員）	継続	—	—	・ 水防(消防)団を通じた募集、勧誘等による、団員数の確保	継続	・消防団員に対する理解を深めるなど広報活動を推進するなど消防団員数の確保に努める。	継続	・水防(消防)団を通して募集、勧誘等を行い、団員数の確保を目指す	継続
2)要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進に関する取組	①	流域タイムラインを活用した要配慮者利用施設と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた支援の検討	N	警察の災害警備訓練において、要配慮者利用施設が参加する訓練を取り入れるなど、災害対処能力を高める取組を実施	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	R1以降→	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	R1→R2	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援等について自主防災組織との連携 →H30以降防災訓練にあわせて取り組むため調整中	継続	・流域タイムラインを活用した配慮者利用施設・関係各課と連携した情報伝達訓練や避難訓練の検討及び避難確保計画の作成に向けた支援の検討	H29→ R3以降
	②	要配慮者利用施設、大規模工場等への浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	N			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(3) 広域かつ長期の浸水被害に対する社会経済活動の早期復旧のため																	
1)排水活動の強化に関する取組	①	市町村向け川の防災情報による排水ポンプ場情報の共有	P			・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続	・市町村向け川の防災情報による内水情報の共有	継続
	②	想定最大規模の洪水を想定した排水計画の検討	T、U、V														
	③	排水ポンプ車等による訓練の実施	U			—	—	・排水ポンプ車等による訓練の実施	継続	—	—	—	—	—	—	—	—

概ね5年で実施する取組 （空知川地域部会）

項目			課題の 対応	北海道警察		芦別市		赤平市		富良野市		上富良野町		中富良野町		南富良野町	
				業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期	業務内容	時期
2)緊急的な災害復旧工 事に向けた取組強化	①	堤防決壊シミュレーションに よる現地条件を考慮した効 果的な災害復旧方法の検 討	W														
	②	堤防決壊シミュレーションに おける堤防天端を活用した 緊急輸送路の活用検討	W														